

# 令和7年度 岐阜大学Topics



# — 目 次 —

## 【教育】

- ・ 令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行 ..... 2
- ・ 令和7年度宇宙工学講座開講式を開催 ..... 4
- ・ 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催 ..... 6
- ・ 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ ..... 7
- ・ 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出 ..... 9
- ・ 工学部 櫻田修 教授が第2回東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞 ..... 11
- ・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」の修了証書授与式を挙行 ..... 12
- ・ 令和7年度宇宙工学講座閉講式を開催 ..... 13
- ・ 岐阜市教育委員会教育長 水川和彦氏(岐阜大学客員教授)による特別講話「教師とは何者？」を開催 ..... 14
- ・ 令和7年度学位記授与式を挙行 ..... 15

# — 目 次 —

## 【研究】

- ・ CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成  
2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催 ..... 17
- ・ 人工知能研究推進センター2025年度第1回講演会「1%の変革が未来を  
創る～生成AI時代のDX戦略～」を開催 ..... 18
- ・ 文部科学省研究振興局学術研究推進課長が本学を訪問 ..... 19
- ・ 公益財団法人小川科学技術財団から寄附金を受領 ..... 20
- ・ 株式会社日本自然発酵 鈴木社長、株式会社NHC 獨活山社長が本学を  
訪問 ..... 22
- ・ 令和7年度 戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業に係る  
キックオフミーティングを本学で実施 ..... 23
- ・ 第3回アカデミックサミットを開催 ..... 24
- ・ 社会実装研究コア(SIRC)設置に向けた説明会を開催 ..... 25
- ・ 「株式会社Arrowsmith」に岐阜大学発ベンチャーの称号を授与 ..... 26

# — 目 次 —

## 【国際化】

- ・ シーナカリンウィロート大学(タイ王国)と大学間学術交流協定を締結 ..... 28
- ・ 南フロリダ大学が岐阜大学を訪問し、学術交流協定の更新調印式を実施 ..... 29
- ・ 郡上踊りワークショップ(日本文化ワークショップ)を開催 ..... 30
- ・ カウナス工科大学モニカー・マジアキーン准教授らが本学を訪問 ..... 31
- ・ 能楽ワークショップ(日本文化ワークショップ)を開催 ..... 32
- ・ 「日本の魅力を発信！ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催 ..... 33
- ・ マレーシア国民大学及びマラヤ大学(マレーシア)、アンダラス大学  
(インドネシア)を訪問 ..... 34
- ・ チェンマイ大学学長らが本学を訪問 ..... 36
- ・ 連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable 2025」等を開催 ..... 37
- ・ 南フロリダ大学から保健管理センター長の山本教授へGlobal Leadership  
Awardを授与 ..... 38
- ・ マレーシア国民大学の副学長らが本学を訪問 ..... 39
- ・ インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムへ参加 ..... 40

# — 目 次 —

## 【社会貢献】

- ・ 「次世代地域リーダー育成プログラム」の学生たちがNEXCO中日本と共同  
で交通安全キャンペーンを開催 ..... 42
- ・ 大藪副学長が代表を務める「消費者ネットワーク岐阜」が消費者庁消費者  
支援功労者表彰「ベスト消費者サポーター章」を受賞 ..... 43
- ・ OKB地域応援私募債(拍手喝債)～地域貢献型～寄附金贈呈式を開催 ..... 44
- ・ 岐阜県と「若者のライフデザイン及びキャリア形成に係る連携事業に関する  
覚書」を締結 ..... 46
- ・ 岐阜県と連携推進会議を開催 ..... 47
- ・ 岐阜大学が「ぎふSDGs推進ゴールドパートナー」に認定 ..... 48
- ・ 第16回ぎふCOC+事業推進コンソーシアム運営会議を開催 ..... 49
- ・ 七宗町と「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結 ..... 50
- ・ 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催 ..... 51

# — 目 次 —

## 【大学病院】

・ 令和7年度看護師特定行為研修開講式を挙行	.....	53
・ 救命救急センターの充実度評価において7年連続「S評価」を取得	.....	54
・ ナース・オブ・ザ・イヤー表彰式を挙行	.....	55
・ 「健康ハートの日2025 in GIFU」を開催 （岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター主催）	.....	56
・ 新しい働き方の実現へ -国立大学病院初の試み-	.....	57
・ 令和7年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈	.....	58
・ 「献血感謝の集い」にて岐阜県知事表彰を受賞	.....	59
・ クリスマスイルミネーション点灯式を開催	.....	60
・ 医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師が外科技術競技大会で世界一	.....	61
・ 令和7年度病院ボランティア感謝状贈呈式・懇談会・研修会を開催	.....	62
・ 入院中の子どもたちへ向けて、花火の打ち上げを開催	.....	63
・ 呼吸器外科 岩田尚 教授が第18回 大上賞を受賞	.....	64
・ 令和7年度看護師特定行為研修修了式を挙行	.....	65

## ～ 学生活動等 ～

・ 岐阜大学の2チームがTongaliビジネスプランコンテスト2025で受賞	.....	67
・ 飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ2025」を 開催	.....	68
・ 岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2025」で 総合6位を獲得	.....	71
・ 学生チーム「iGEM Gifu」がiGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞	.....	72
・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催	.....	73
・ 岐阜大学医学部のサークル団体が「第77回西日本医科学生総合体育大会」で 総合優勝	.....	74
・ 岐阜大学環境サークル「G-amet」を岐阜市が表彰	.....	75
・ 「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で本学学生が日本MITベン チャーフォーラム賞を受賞	.....	76
・ 社会システム経営学環の学生が企画した新商品「岐阜大仏珈琲」が発売	.....	77

# — 目 次 —

## ～ その他 ～

・ 赤松諒一選手(本学教育学研究科修了)が吉田学長へカタールでの国際大会 結果とスポーツ功労者表彰の受賞を報告	.....	79
・ 創立76周年記念日行事を開催	.....	80
・ サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)において最上位のプラチナ認証 を取得	.....	82
・ 赤松諒一選手(本学教育学研究科修了)、本田基偉選手(自然科学技術研究科 2年)が、吉田学長へ日本陸上競技選手権大会の結果を報告	.....	83
・ 金沢大学の和田学長による講演会を開催	.....	84
・ 武藤経済産業大臣が本学を表敬訪問	.....	85
・ ウェルネスイベント「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催	.....	86
・ 保健管理センター開設50周年を記念してシンポジウムを開催	.....	87
・ 東京2025世界陸上 走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問	.....	89
・ 第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催	.....	91
・ 「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催	.....	92
・ 第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催	.....	94
・ 大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催	.....	97
・ 医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年記念式典を開催	.....	98
・ iGEM Gifuへの岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施	.....	100
・ 吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞	.....	101
・ 文部科学省科学技術・学術政策局参事官が本学を訪問	.....	102
・ 畑中臨床講師への岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施	.....	103
・ 文部科学省 高等教育局 国立大学法人支援課長が本学を訪問	.....	105
・ 「岐阜大学経営者の会」新年会を開催	.....	106
・ 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定	.....	107
・ 令和7年度岐阜大学応援奨学生学習成果報告会を開催	.....	108
・ 北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長による講演会を開催	.....	109

# — 目 次 —

## ～ 国立大学法人東海国立大学機構 ～

- ・ 持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム(GSAP)が発足 ..... 111
- ・ あべ文部科学大臣とジョイント・ディグリープログラムに関する意見交換を行い、伊藤高等教育局長へ要望書を手交 ..... 113
- ・ 東海国立大学機構と富士通、ドラッグ・ロス解消に向け診療データ利活用を加速 ..... 114
- ・ 第4回 東海・信州 国立大学連携プラットフォーム(C<sup>2</sup>-FRONTS)学長懇談会を開催 ..... 115
- ・ 名古屋大学東山キャンパスに「Common Nexus」がオープン！ ..... 116
- ・ 教育グッドプラクティス機構長特別表彰式開催 ～さらなる授業の質向上を目指して～ ..... 117
- ・ 令和6事業年度財務諸表を公表 ..... 118
- ・ 東海国立大学機構 環境報告書2025を公表 ..... 119
- ・ 東海国立大学機構が「第1回サステナビリティレポートアワード奨励賞」を受賞 ..... 120
- ・ 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025を開催 ..... 121
- ・ 第5回 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム(C<sup>2</sup>-FRONTS)懇談会を開催 ..... 122
- ・ 東海国立大学機構 統合報告書2025を発行 ..... 123
- ・ 東海国立大学機構が支援する『東海バイオコミュニティ』が内閣府「地域バイオコミュニティ」に新規認定 ..... 124

# 教育



- ・ 令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行
- ・ 令和7年度宇宙工学講座開講式を開催
- ・ 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催
- ・ 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ
- ・ 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出
- ・ 工学部 櫻田修 教授が第2回東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞
- ・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」の修了証書授与式を挙行
- ・ 令和7年度宇宙工学講座閉講式を開催
- ・ 岐阜市教育委員会教育長 水川和彦氏（岐阜大学客員教授）による特別講話「教師とは何者？」を開催
- ・ 令和7年度学位記授与式を挙行

## 令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行

### 【概要】

本学は、令和7年4月7日（月）に、岐阜市民会館にて令和7年度入学式を挙行しました。今年度は、学部学生1,333名、大学院学生651名が本学へ入学し、新たな一步を踏み出しました。

式典では、入学生に向けて吉田和弘学長が「岐阜大学での学びを通じて、他とは異なった見方や姿勢を持ち、将来を照らす目となって活躍してください。清流と緑に囲まれた美しいキャンパスで、勉学に励み、体を鍛え、友人を作り、次の時代の先導者として成長してください。」と告辞を述べ、入学生代表宣誓として、学部学生代表の丹羽菜月さん（医学部）、大学院学生代表の西紗弥加さん（自然科学技術研究科）それぞれが、「学び、究め、貢献する」ことを宣誓しました。

また、式典後には昨年を引き続いて、学部学生を歓迎するウェルカムセレモニーを開催し、本学卒業生であり、元パイロットインキ株式会社社長の中筋憲一氏が講演を行いました。講演にて中筋氏は「岐阜大学での4年間は今でも私の人生の土台になっています。大学時代に抱いた純粋な夢は意外に実現できるものです。素晴らしいキャンパスで皆さんも夢を追いかけてください。」と入学生へ応援のメッセージを送りました。その他にもウェルカムセレモニーでは、学生団体による活動紹介等を行い、入学生を歓迎する和やかなものとなりました。

岐阜大学は、新たな一步を踏み出した皆さんが、これからの未来を切り拓いていくことを心から期待しています。



入学式の様子

令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙



告辞を述べる吉田学長



学部学生を代表して宣誓する医学部の丹羽さん



ウェルカムセレモニーで講演を行う中筋氏



学生団体による活動紹介の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/4/8	中日	新たな一歩 希望あふれ 岐阜大入学式 1984人意気 込む ～吉田和弘学長、医学部 丹羽菜月さん～
2025/4/8	岐阜	学び究め 地域、世界へ 岐阜大入学式、1984人誓う ～吉田和弘学長、医学部 丹羽菜月さん～

## 令和7年度宇宙工学講座開講式を開催

### 【概要】

本学地域連携推進本部地域協学センターと工学部附属宇宙利用研究推進センターは、6月22日（日）に令和7年度宇宙工学講座開講式を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館で開催しました。本講座は宇宙工学に関する基礎知識を習得し、今後の人工衛星・ロケット・航空産業で活躍する人材育成を、学校を超えた仲間で行う事を目的に開催したもので、岐阜県内の高校生及び高専生らが出席しました（受講者数：16校103名、聴講者数：1校1名）。

受講生は、岐阜大学教員、JAXA等の講師による最先端の宇宙工学に関する教育をオンラインで受講することができ、11月には国立天文台野辺山宇宙電波観測所とJAXA筑波宇宙センターの見学ツアーも予定されています。

開講式では吉田和弘学長からの挨拶にはじまり、江崎禎英岐阜県知事をはじめとする関係機関からの挨拶のほか、宇宙人材育成事業として実施している缶サットプログラムやぎふハイスクールサット(GHS)の活動報告、GHSの愛称発表などが行われました。また、アメリカ航空宇宙局（NASA）アジア代表のAndy Masciola氏よりアルテミス計画をはじめNASAの宇宙に対する取り組みについての講演もあり、参加した生徒からは宇宙に対する興味がますます高まったといった声も聞かれ、好評を博しました。

今後、本講座では、12月13日（土）の開講式までに全9回の講義が予定されています。

※宇宙工学講座は、ぎふ宇宙プロジェクト研究会の活動として、また岐阜大学の高大連携事業の一環として、各務原市、岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、独立行政法人国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校、一般社団法人岐阜県工業会、中日本航空専門学校、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、Planet Science（France）、川崎重工業株式会社、東海国立大学機構 航空宇宙生産技術開発センターの共催・後援・協力の下、実施しています。



集合写真

令和7年度宇宙工学講座開講式を開催



吉田学長による開会の挨拶



江崎岐阜県知事からのご挨拶



高校生によるぎふハイスクールサット報告



アンディ・マッシオーラNASAアジア代表による特別講演

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/23	中日	高校生 宇宙の学びに 目がキラリ 空宙博で講座開講式 ～岐阜大主催～
2025/6/23	岐阜	宇宙の世界への入り口に NASA担当者がエール 高校生講座 空宙博で開講式 ～岐阜大主催「宇宙工学講座」～

## 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催

### 【概要】

7月25日（金）に、岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催しました。この懇談会は岐阜県内高等学校と本学の現状と課題について相互理解を深めることを目的に、平成18年度から毎年実施しています。

今年度は、岐阜県高等学校長協会の小野会長（県立岐阜高等学校校長）をはじめ、16名の校長・事務局長をお迎えし、本学からは、吉田学長、益子副学長、杉山副学長はじめ、19名の教職員が参加しました。

懇談会は、吉田学長による「岐阜大学の現状と方針」の説明からはじまり、小野会長及び中村斐太高等学校校長からは「DX・AI、地域連携活動についての高等学校の状況」というテーマで高等学校の現状と諸課題、そして今後の地域と大学との連携についての説明がありました。

その後、本学からは、教学DXと数理データサイエンス教育についての報告や学生ステータスシステムcrescendoを実際に利用している学生によるポートフォリオを中心とした自己管理についての報告、杉山副学長から高大接続事業を中心に本学の地域連携活動についての報告や、社会システム経営学環の学生による秋の高山祭（八幡祭）実習報告がありました。

懇談会を通じて、岐阜県高等学校長協会からは、教育現場の現状を踏まえた高大連携や入試改革など本学への期待をはじめ多くの意見・要望が示され、質疑を交えながら意見交換を行いました。大学と高等学校が双方の現状・課題について理解を深める有意義な機会となりました。

懇談会終了後には、地域連携スマート金型技術研究センターの施設見学を行い、吉田センター長及び学生による概要説明と質疑応答も行われました。

今後も岐阜大学は、県下の高等学校と活発な意見交換を行い、相互理解を深めることで、さらなる連携取組の強化に向けた活動を展開していきます。



吉田学長による説明



小野会長による説明



中村校長による説明



本学学生による報告



施設見学

## 県内の高校生らが制作した 超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ

### 【概要】

岐阜大学を中心に、県内の工業高校や企業が協力して、超小型人工衛星の制作に取り組んだ「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」。その1号機となる「GHS-01『らいちょう』」が8月24日、無事に宇宙へ飛び立ちました。

当日は、工学部附属宇宙研究利用推進センター主催により、OKB岐阜大学プラザ、パブリックビューイング会場の歴史未来館（笠松町）、発射場のあるフロリダ州（アメリカ）を同時中継する打ち上げ応援イベントを開催しました。イベントの様子はYouTubeでライブ配信しました。

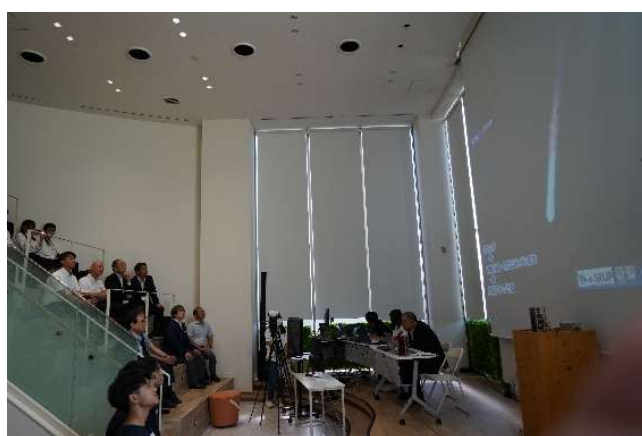
日本時間15時45分に、ジョン・F・ケネディ宇宙センターから、「らいちょう」を載せたSpace X社のロケット「Falcon 9」が宇宙へ飛び立つ姿が画面へ映し出されると、各会場へ集まった本学関係者、岐阜県関係者、地元高校生、OB・OG、企業関係者などから大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

吉田学長から、本プロジェクトの参加者に対して「多くの方々のご尽力、ご支援があってこの日を迎えられたことを本当に嬉しく思います。『らいちょう』とともに、皆さんの思いと努力も載せたロケットが宇宙に向かって飛び立っていった様に、皆さんも将来の夢に向かって進んでいって欲しいと思います」と、激励のコメントが述べられました。

今後、らいちょうは国際宇宙ステーション（ISS）・日本実験棟「きぼう」から高度約400kmの軌道へ投入される予定です。放出時にもイベントの開催を予定しておりますので、詳細は本学及び工学部附属宇宙研究利用推進センターの公式サイトにて随時お知らせします。



打ち上げ成功に沸く会場



宇宙へ飛び立つ『らいちょう』を見守る

県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ



コメントを述べる吉田学長



現地の様子を伝える各務校長（飛騨神岡高校）と  
鷺見教諭（岐阜工業高校）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/8/25	中日	県内高校生ら製作の人工衛星「らいちょう」打ち上げに成功 岐阜大、笠松でPV 設計の卒業生「ひと安心」 ～岐阜大と県が企画した「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」～
2025/8/26	日刊工業	高校生が製作 人工衛星宇宙へ 岐阜県、米で打ち上げ ～岐阜大が統括～
2025/8/26	岐阜	「らいちょう」打ち上げ成功 県内工業校生ら開発の小型人工衛星 初号機製作のOB「安心した」 ～県と岐阜大、県内工業高校などが2022年から開発をすすめる小型人工衛星「らいちょう」～

## 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を 国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出

### 【概要】

岐阜大学工学部附属宇宙研究利用推進センターを中心に、県内の工業高校や企業が協力して制作し、8月24日にロケットで宇宙へ打ち上げられた超小型人工衛星「らいちょう（GHS-01）」が、9月19日には国際宇宙ステーション（ISS）日本棟「きぼう」から宇宙空間へ放出されました。

当日は放出の瞬間を見守るライブビューイングイベントが開催され、開発に関わった高校生や本学関係者、江崎 禎英 知事をはじめとする岐阜県関係者、協力企業の皆さんなど岐阜県庁20階の清流ロビーに集まった約70名のほか、リモートで参加した、はやぶさ2プロジェクトチームのプロジェクトマネージャ 津田 雄一 教授（宇宙航空研究開発機構、JAXA）、三上 建治 参事官（内閣府 宇宙開発戦略推進事務局）、長崎県の人工衛星プロジェクトメンバーらはJAXAのYouTube公式チャンネル「JAXA Channel」で、ISSからリアルタイムで配信される映像を通じて「らいちょう」の宇宙への放出を見守りました。

放出時には清流ロビーからもISSへカウントダウンを送り、「らいちょう」が無事に宇宙空間へ放出された映像が流れると、会場は拍手と歓声に包まれました。吉田学長は「放出が成功した瞬間は本当に感動しました。制作に携わった皆さんの夢が実現し、また次の世代の夢へと繋がっていくことを嬉しく思います」と喜びの言葉を述べました。

「らいちょう」は、今後、宇宙からの地球の撮影、音声通信を通じた国際交流などのミッションを行う予定で、引き続き、県内の高校生らが携わっていきます。



吉田学長



江崎知事

県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を  
国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出



放出の瞬間の様子



放出成功に沸く高校生

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/9/20	岐阜	らいちょう、宇宙に放出 超小型人工衛星 開発の高校生ら見守る ～岐阜大を中心に県内の工業高校や企業が開発した超小型人工衛星「らいちょう」～
2025/9/20	中日	きぼうから宇宙空間に 県内高校生ら製作 人工衛星 現役生、卒業生ら70人 中継見守る ～県と岐阜大が企画した「ぎふハイスクールサット (GHS) プロジェクト」～
2025/10/1	読売	高校生の衛生 宇宙に一步 ISSから放出 運用開始へ ～宇宙研究利用推進センター長 宮坂武志 教授～

## 工学部 櫻田修 教授が第2回東海国立大学機構教育 グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞

### 【概要】

工学部の櫻田修 教授が、第2回東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞しました。

本制度は、東海国立大学機構に所属する教員の教育に対するモチベーションを高め、授業の質の向上を目指し令和5年度に創設されたものです。

模範的で特に優れた効果又は成果があったと認められた授業として、岐阜大学からは櫻田教授の授業（全学共通教育科目「岐阜学 環境マネジメントと環境経営」）が選ばれました。「環境マネジメントと環境経営」は、オンライン、オンデマンド、対面及びフィールドワークと多様な授業形態で取り入れた点が評価されました。

8月26日(火)に開催した表彰式では、松尾機構長より「学生時代に"こんな勉強をした"という思い出は一生残り、人生の糧となる。両大学で素晴らしい成果を共有してさらなる向上につなげてほしい」と謝辞が述べられました。

また、9月16日（火）には吉田学長へ受賞報告を行いました。報告では、当該授業が、長谷川典彦 名誉教授、三井 栄 教授（社会システム経営学環）、向井貴彦教授（地域科学部）、三谷 晋 教授（地域科学部）、八代田真人 教授（応用生物科学部）、村瀬哲磨 教授（応用生物科学部）、西村眞一 教授（応用生物科学部）、小林智尚 教授（工学部）、村岡裕由 教授（元環境社会共生体研究センター）の協力により、経営・法律・農学・生物・獣医学・気象災害・森林といった多様な専門分野の視点を取り入れ、さらに、東海地区の行政、企業などから6名のゲストスピーカーによる話題提供、施設見学を行ったことを紹介しました。櫻田教授は「今回、この栄誉ある賞を受賞できたのは、私ひとりの力ではなく、長年にわたりご協力いただいた皆様のお陰と実感しております。今後もより一層教養教育の発展に邁進して参ります」と抱負を語りました。吉田学長からは「今後も、教員の模範となり頑張っていたください」とお祝いの言葉がありました。

今年度からは授業名を「地域と環境SDGs」と変更し、名古屋大学を始め、岐阜市立女子短期大学、中部学院大学との連携開設科目として再スタートしています。

本学は引き続き、学び、究め、貢献する人材の輩出を目指して、教養教育の質保証と専門教育の基盤確立に努めていきます。



表彰式の様子（左から松尾機構長、櫻田教授）



学長報告

## 「ISO14001内部環境監査員養成研修」 修了証書授与式を挙行

### 【概要】

11月11日（火）、「ISO14001内部環境監査員養成研修」の修了証書授与式を開催しました。式には吉田学長、杉山副学長（環境対策室長）、統括環境管理責任者の大谷教授（工学部）らが出席し、岐阜大学と名古屋大学の学生21名に修了証書が授与されました。

岐阜大学は平成15年に地域科学部で環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」を認証取得し、その後、附属病院を除く全学で認証を取得しています。加えて、平成23年からは教職員と学生による内部環境監査を毎年実施し、環境パフォーマンスの向上に取り組んできました。

内部環境監査は、本学の環境マネジメントシステムがISO14001の規格に沿って運用されているかを学内の監査員が確認するものです。連携開設科目※「マネジメント論（マネジメントシステムと監査）」を履修している学生たちは、教職員とともに同規格の概要や監査の実施手順について学内外の講師による研修を受け、実際に内部環境監査に監査員として参加し、学生ならではの視点で監査を行いました。

授与式では、吉田学長から本研修を修了した学生に修了証書を手渡しました。吉田学長は「学生たちは環境への理解を深め、高い志をもって学びを重ねてきた。今回得られた知識と経験を、ぜひ今後の活動に生かしていただきたい」と激励の言葉をおくりました。

その後の意見交換では、学生から「普段接する機会のない学部や部署を監査し、大学や学部の取り組みを知ることがとても有意義だった」「大学の環境への取り組みを知り、自分自身の環境への向き合い方を学ぶ機会となった」といった声も聞かれ、積極的な意見交換が行われました。

岐阜大学は今後も環境教育と実践の場を提供し、学生が地域や社会に貢献できる人材へと成長できるよう支援を続けていきます。

### ※連携開設科目：

他大学と本学が連携して開設する科目。

名古屋大学の学生は、岐阜大学で開講される連携開設科目を受講することができる。



集合写真（名古屋大学の学生はオンライン参加）

## 令和7年度宇宙工学講座閉講式を開催

### 【概要】

地域連携推進本部地域協学センターと工学部附属宇宙研究利用推進センターは、12月13日（土）、宇宙工学講座の閉講式を開催しました。

宇宙工学講座は、岐阜県との高大連携事業として、高校生等に岐阜大学の教育・研究を体験する機会を提供し、次世代を担う高校生に県内航空宇宙産業の魅力を伝えることで、同産業への就業意欲の醸成・喚起を目的に実施しています。今年度の閉講式には約100名の受講生が参加しました。

閉講式では、まず実施機関を代表して吉田学長が挨拶を行いました。続いて、小型缶型模擬衛星を利用する「宇宙甲子園缶サット部門」に参加した県内2校による、岐阜地方大会でのミッション紹介があり、2026年3月に岐阜大学で開催される全国大会への意気込みも語られました。さらに、県内高校生が中心となって製作した小型人工衛星「ぎふハイスクールサットプロジェクト」の紹介があり、8月から9月にかけて実施したアメリカでの打ち上げや国際宇宙ステーションからの放出、その後の運用について報告されました。報告後には、名古屋大学宇宙地球環境研究所の増田智准教授による「激しく活動する太陽」と題した特別講演が行われ、参加した受講生たちは興味深く耳を傾けていました。

式の最後には、佐々木地域連携推進本部特任教授から修了証書が授与されたほか、優秀な課題レポートを提出した受講生には吉田学長より学長賞、森脇宇宙工学講座アドバイザー（前岐阜大学長）より特別賞がそれぞれ授与されました。植松工学部長による閉会の挨拶をもって、令和7年度の宇宙工学講座は盛況のうちに幕を閉じました。



特別講演の様子



特別賞の受賞者



学長賞受賞者



記念撮影

## 岐阜市教育委員会教育長 水川和彦氏（岐阜大学客員教授）による 特別講話「教師とは何者？」を開催

### 【概要】

12月15日、教育学部において、岐阜市教育委員会教育長であり本学の客員教授でもある水川和彦氏による特別講話「教師とは何者？」を開催しました。

本講話は、岐阜市教育委員会と教育学部のタイアップ事業「現代学校教育の諸課題～不登校児童生徒対応の体験学習～」の一環として実施したものです。当該事業は、岐阜市教育委員会が「岐阜市内中学校のフリースペースにおいて学生のマンパワーを借り不登校対策の充実を図ること」、教育学部が「不登校対策の体験学習を通じて教員養成プログラムの更なる充実や経験値の高い教師の育成を図ること」を目的としており、今年2月13日に岐阜大学で開催した「岐阜市との連携推進会議」において、柴橋市長の発言を契機に始まったものです。

水川氏は、『教師とは子どもにとってどんな存在なのか、どんな存在であるべきなのか？』について自身の教員経験を踏まえながら教職を目指す学生たちに語りかけました。学生たちも共感を持ちながら熱心に耳を傾けていました。



## 令和7年度学位記授与式を挙行

### 【概要】

3月25日（水）、ぎふしんフォーラムにおいて令和7年度学位記授与式を執り行いました。本年度は、学部学生1,260人、大学院学生606人が卒業・修了の日を迎えました。

式典では、吉田学長が告辞を述べ、「教育とは、早く整った『小さな完成品』をつくることではなく、将来にわたって成長し続ける『大きな器をもった未完成品』を育てることにこそ意味がある。」と、愛知県出身の哲学者・教育者である森 信三先生の言葉を引用しながら、卒業生・修了生に向けて、学び続ける姿勢の大切さを伝えました。

修了生代表として連合農学研究科・梅村 悠太さんは、「大学院での研究生生活を通じて得た専門性や粘り強く課題に向き合う姿勢、分野や背景の異なる仲間との交流、切磋琢磨した日々が、これからの人生においてもかけがえのない財産となる」と謝辞を述べました。

さらに、卒業生代表の社会システム経営学環・渡邊 恵奈さんは、「大きな転換をむかえつつある時代において、岐阜大学で培った『問い続ける力』や『つなぐ力』を生かし、より良い社会づくりに貢献していきたい」と決意を語りました。

このほか、在学中に特に優れた学業成績を修めた卒業生・修了生に対し表彰が行われました。



学位記授与



学長告辞



修了生代表謝辞



卒業生代表謝辞



愛唱歌合唱



会場の様子

# 研究



- ・ CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成  
2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催
- ・ 人工知能研究推進センター2025年度第1回講演会「1%の変革が未来を創る  
～生成AI時代のDX戦略～」を開催
- ・ 文部科学省研究振興局学術研究推進課長が本学を訪問
- ・ 公益財団法人小川科学技術財団から寄附金を受領
- ・ 株式会社日本自然発酵 鈴木社長、株式会社NHC 獨活山社長が本学を訪問
- ・ 令和7年度 戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業に係る キックオフ  
ミーティングを本学で実施
- ・ 第3回アカデミックサミットを開催
- ・ 社会実装研究コア（SIRC）設置に向けた説明会を開催
- ・ 「株式会社Arrowsmith」に岐阜大学発ベンチャーの称号を授与

## CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成 2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催

### 【概要】

令和7年4月23日（水）にCMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催しました。

CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクトとは、（株）CMC総合研究所からのご寄附により創設した、女子生徒の理系進路選択支援、女子学生と女性研究者の就学・研究に係る助成、育児・介護のための補助を支援するための冠特定事業です。本事業の一部として、岐阜大学に所属する女性研究者が取り組む独創的、先駆的かつ社会貢献に資する研究に対して研究助成を行っています。

今回、2024年度に本研究助成事業として採択された研究者の成果発表および2025年度新たに採択された保健管理センター田尻下助教の採択通知書授与式を岐阜大学学長室にて開催しました。

成果発表会では、研究成果にとどまらず、今後の研究の展望など意見交換も行われました。（株）CMC総合研究所の元島代表取締役により励ましの言葉もいただきました。



左から吉田学長、田尻下助教、元島代表取締役



左から大藪副学長、田尻下助教、  
（2024年度採択者）村瀬教授・古山准教授、  
元島代表取締役、吉田学長

## 人工知能研究推進センター2025年度第1回講演会 「1%の変革が未来を創る～生成AI時代のDX戦略～」を開催

### 【概要】

6月5日(木)OKB岐阜大学プラザにおいて、「1%の変革が未来を創る～生成AI時代のDX戦略～」と題し、本学人工知能研究推進センターの安野たかひろ客員准教授が講演を行いました。

安野客員准教授は、AIエンジニア、起業家、SF作家としての経験を持ち、講演の冒頭では、それぞれの職業においてアウトプットは異なるものの、「未来を描く」という共通点があったことを説明しました。また、AI技術により集まった意見を効果的に可視化し、さらに、集まった意見の集約を双方向のコミュニケーションにより改善していく実践方法などを紹介しました。



左から加藤教授、安野客員准教授、吉田学長



講演会の様子



講演会の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/16	中日	選挙でのAI活用 解説 ～岐阜大学人工知能研究推進センター 安野貴博客員准教授～
2025/6/16	岐阜	「AIで価値創造を」 ～岐阜大学人工知能研究推進センター 安野貴博客員准教授～

## 文部科学省研究振興局学術研究推進課長が本学を訪問

### 【概要】

6月26日に、文部科学省研究振興局から板倉寛 学術研究推進課長らが岐阜大学を訪問し、科学研究助成事業および創発的研究支援事業について意見交換を行いました。

本学の特徴である糖鎖生命コア研究所や獣医学教育・研究施設を視察後、学長室にて王副学長、松尾機構長を交えて、本学の教育・研究強化に対する取組を紹介するとともに、今後の国際連携や地方大学の在り方等について懇談しました。

その後は、本学の科学研究助成事業にかかる実績や学内支援・課題等について意見交換を行いました。さらに創発的研究支援事業の採択者とともに事業の今後について意見交換を行いました。

本学では今後も、総合知を活かした研究力を強化し、その強みをさらに伸ばすことで、地域の中核大学としての役割を果たすことを目指し、文部科学省などの機関との情報交換の場を積極的に設けてまいります。



板倉学術研究推進課長（中央）と吉田学長（右から2人目）、王副学長（右）、松尾機構長（左）



意見交換会の様子（創発的研究支援事業）

## 公益財団法人小川科学技術財団から寄附金を受領

### 【概要】

10月31日（金）、岐阜大学学長室において、公益財団法人小川科学技術財団（理事長：小川 信也 様）から本学への寄附金贈呈式を執り行いました。

今回のご寄附は、財団設立40周年記念事業の一環として、岐阜大学基金の「産学連携推進基金」にご支援を賜ったものです。

贈呈式には、同財団から小川 信也 理事長、林 貴久 事務局長、愛知 浩介 様にお越しいただき、岐阜大学からは吉田 和弘 学長、王 志剛 副学長、本田 宗央 特任教授が出席しました。

式では、小川理事長から財団設立から40年にわたる歩みや、これまでの研究助成活動、さらに理事長ご自身が岐阜大学地域協力会の会長を務められた際のご縁や経験などに触れながら、地域とともに科学技術を育む重要性についてお話しいただきました。その後、吉田学長より謝辞を述べ、これまで同財団の研究助成を受けた本学教員への感謝とともに、寄附金を通じた地域科学技術の振興・人材育成への決意を表しました。

今回のご厚志は、産学官連携の一層の推進や研究成果の社会実装、次世代研究者の育成など、地域とともに発展する大学づくりのために大切に活用させていただきます。

公益財団法人小川科学技術財団の皆さまに心より御礼申し上げます。



集合写真（左から愛知様、林事務局長、小川理事長、吉田学長、王副学長、本田特任教授）



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/1	中日	小川科学技術財団が岐阜大に500万円寄附 産学官連携強化に向け
2025/11/4	中部経済	岐阜大に寄附金 創立40年記念で 小川科学技術財団
2025/11/4	日刊工業	小川科技財団、40周年事業 岐阜大に500万円寄附 産学連携や「刃物学」研究
2025/11/6	岐阜	科学技術研究に助成金 小川財団、26件計1615万円 ～工学部 船曳一正 教授～
2025/11/6	日刊工業	岐阜の研究者対象 今年度助成26件 小川科技財団 ～工学部 伊藤聡 教授～
2025/11/7	岐阜	岐阜大に500万円 小川財団が寄附 設立40周年記念

## 株式会社日本自然発酵 鈴木社長、 株式会社NHC 獨活山社長が本学を訪問

### 【概要】

11月12日（水）、岐阜大学に共同研究講座を設置している株式会社日本自然発酵の代表取締役社長・鈴木愛智さん、その親会社である株式会社NHCの代表取締役社長・獨活山英彦さんらに大学を訪問いただきました。

日本自然発酵は、酵素や発酵技術を活用した健康食品や調味料の研究・製造・販売を行う企業であり、NHCは自然食品、健康補助食品、化粧品などを幅広く展開する健康関連企業グループです。同社は大学院連合創薬医療情報研究科の上田浩研究科長、守川耕平准教授と共同研究を進めており、研究の進捗や今後の連携について意見交換を行いました。今回の訪問は、産学連携の強化と地域発の健康科学研究の発展に向けた重要な一歩となりました。



日本自然発酵のみなさんと



NHCのみなさんと

## 令和7年度 戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業に係る キックオフミーティングを本学で実施

### 【概要】

1月7日、内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 大学改革・ファンド室 河村雅之企画官をはじめとする4名が岐阜大学を訪問しました。

内閣府・BCGからは、本事業の概要や調査分析の説明があり、本学からは提案した取り組みの紹介を行ったのち、今後の実証事業の進め方について議論しました。

河村企画官は本学が提案したTRL(技術成熟度レベル)を用いた岐阜大学独自の共創研究アプローチに興味を示し、学長らと深い議論を行いました。

その後一行は、本事業に大きく関連し本学の特色あるセンターの1つである地域連携スマート金型技術研究センターを訪れ、学内における研究拠点及び環境整備の様子を見学しました。

施設見学後には、吉田学長、王副学長ら執行部と今後の政府による大学施策の検討に向けた意見交換会を実施しました。

本学は本事業を通して共創型社会実装大学への変革を一層加速させていきます。



地域連携スマート金型センター視察



意見交換会

## 第3回アカデミックサミットを開催

### 【概要】

1月9日、OKB岐阜大学プラザにて「第3回アカデミックサミット」を開催しました。本イベントは、大学執行部とJST創発的研究支援事業の採択者が意見交換・交流を行う場として実施し、次世代研究者や学生も参加しました。

当日は、2024年度（5期生）創発的研究支援事業採択者及び2022年度（3期生・ステージゲート対象）同事業採択者による研究紹介に続き、研究環境の改善をテーマに意見交換を行い「理想的な研究環境」「異分野融合」「研究加速」「大学への提案」を軸に、活発な議論が交わされたほか、コーヒブレイクやポスターセッションなどを通じて、学内研究者間のネットワークが広がる有意義な機会となりました。

岐阜大学は今後も、若手研究者が先導する科学の発展に向けて、研究支援体制の充実を図ってまいります。



意見交換会



集合写真

## 社会実装研究コア（SIRC）設置に向けた説明会を開催

### 【概要】

岐阜大学は2026年4月に、高等研究院において新たに【社会実装研究コア（Social Impact and Innovation Research Core（略称：SIRC（サーク）））】を設置します。

これに先立ち、3月16日（月）、SIRC構成員や学内関係者を対象とした説明会をTOIC岐阜サイト（愛称：OKB岐阜大学プラザ）で開催しました。当日は、Web参加者を含め約60名が参加しました。

説明会冒頭では、吉田学長よりこれまで本学が進めてきた研究力強化や、地域中核大学としての取り組みの振り返りと、今後、SIRCが大学改革の中心的な役割を担うことの説明がありました。大学全体での意識改革と協働の必要性を呼びかけました。

続いて、王副学長からSIRCの設置趣旨と組織概要について説明がありました。大学内外の知を統合し、社会課題や企業課題に基づく社会実装研究とその成果を再び基礎研究へ循環させる本学独自の取り組みを紹介し、SIRCにおいてもこうした循環モデルを目指すことの説明がありました。

質疑応答では、SIRCの支援体制や学生の参画のあり方などについて活発な意見交換が行われました。学長からは、大学全体が一体となり、研究者と支援組織が協働できる環境整備を進めていく考えが示されました。

今回の説明会は、SIRCが担う大学改革の方向性と、岐阜大学が目指す「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」の実現に向けたビジョンを共有する機会となりました。

SIRCは、"社会の課題を未来の価値へ"を合言葉に、教育・研究・社会実装を三位一体として進めてまいります。



学長挨拶



王副学長による概要説明



質疑応答の様子



集合写真

## 「株式会社Arrowsmith」に岐阜大学発ベンチャーの称号を授与

### 【概要】

岐阜大学では、研究成果等を社会へ還元することを目的に「岐阜大学発ベンチャー」の認定を行っております。

このたび、新たに株式会社Arrowsmith（以下、Arrowsmith）を、岐阜大学発ベンチャーとして認定し、3月18日（水）に称号授与式を開催しました。

Arrowsmithは、薬剤耐性菌や難治性細菌感染症に対する新しい治療法「ファージセラピー」を社会実装するため設立された岐阜大学発のベンチャー企業です。「世界中の人々に安全で効果的なファージセラピーを届け、細菌感染症のない未来を創造する」というビジョンのもと、これまでの産学連携による共同研究成果を基盤に、複数の大型の資金調達を行い、革新的な治療方法の研究開発に取り組んでいます。

授与式には同社代表取締役で、岐阜大学の元教員でもある安藤弘樹氏が出席し、吉田学長から岐阜大学発ベンチャーの称号記が手渡されました。

称号授与後の懇談では、研究開発や起業に至るまでの経緯、今後の事業展望等について意見交換が行われました。吉田学長からは「今後は糖鎖生命コア研究所やOne Medicineトランスレーショナルリサーチセンターといった本学の研究拠点との連携や、岐阜地域との関係継続・発展を期待しています」との言葉が贈られました。

本学における大学発認定ベンチャー企業は、今回で累計13社となりました。岐阜大学は今後も、研究成果を社会へ還元するため、ベンチャー支援も含めた取り組みを一層推進してまいります。



集合写真

（左から）王副学長、安藤代表取締役、吉田学長

# 国際化



- ・シーナカリンウィロート大学（タイ王国）と大学間学術交流協定を締結
- ・南フロリダ大学が岐阜大学を訪問し、学術交流協定の更新調印式を実施
- ・郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催
- ・カウナス工科大学モニカー・マジアキーン准教授らが本学を訪問
- ・能楽ワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催
- ・「日本の魅力を発信！ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催
- ・マレーシア国民大学及びマラヤ大学（マレーシア）、アンダラス大学（インドネシア）を訪問
- ・チェンマイ大学学長らが本学を訪問
- ・連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable 2025」等を開催
- ・南フロリダ大学から保健管理センター長の山本教授へGlobal Leadership Awardを授与
- ・マレーシア国民大学の副学長らが本学を訪問
- ・インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムへ参加

## シーナカリンウィロート大学（タイ王国）と 大学間学術交流協定を締結

### 【概要】

3月27日、岐阜大学とシーナカリンウィロート大学（SWU：タイ王国）は大学間学術交流協定を締結しました。調印式には岐阜大学から吉田和弘学長、リム・リーフ副学長（国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当）、小山博之グローバル推進機構長、山田雅弘教育学部長、野村幸弘教育学部教授、大場伸也応用生物学部附属フィールド科学教育研究センター教授らが出席し、SWUのチョルウィット・ジェアラジット学長はじめ33名の訪問団を歓迎しました。

本学とSWUの交流は2015年3月に両大の教育学部間で部局間協定を締結したことから始まりました。2017年8月にはタイ教育省と岐阜大学が共同で「第1回特別支援教育国際シンポジウム」を開催し、2022年12月には大場教授がSWUを訪問し連携を深めました。2023年1月にはSWUのキッチャイ助教と大学院生12人が教育学部と応用生物学部附属岐阜フィールド科学研究教育センターを訪問しました。

さらに、2024年7月にはSWUのソムチャイ・サンティワタナクンル学長をはじめとする教職員10名と学生16名が本学を訪れ、教育学部の施設見学や岐阜フィールド科学教育研究センターでの障がい者によるトマト栽培を見学しました。

岐阜大学とSWUは今回の協定締結により学術交流をさらに深め、今後より一層の教育・研究交流を推進していきます。



チョルウィット・ジェアラジット学長と吉田和弘学長



シーナカリンウィロート大学訪問団との記念撮影

## 南フロリダ大学が岐阜大学を訪問し、 学術交流協定の更新調印式を実施

### 【概要】

4月3日から4日にかけて、南フロリダ大学（USF）訪問団17名が岐阜大学を訪問し、学内外施設の視察および、学術交流協定書の更新調印式に出席しました。

訪問団は、4月3日に県内の関係施設を訪問し、岐阜市役所の柴橋正直市長を表敬訪問しました。翌4日は、岐阜大学において、両大の学術交流協定の更新調印式を執り行いました。調印式は、岐阜大学 吉田和弘学長と南フロリダ大学のレア・ロー学長による冒頭挨拶に続き、本学のリム・リーフ副学長（国際展開担当）、南フロリダ大学のキキ・カルーソン副学長（国際担当）から、それぞれの大学に関するプレゼンテーションが行われた後、協定書への調印を行い、学術交流協定を更新しました。

この協定は、南フロリダ大学との国際交流を促進し、学生や教職員の交流を活発化させることを目的としています。同大とは2016年に医学部が部局間協定を締結し、交換留学制度が確立しました。2020年の大学間協定締結後は、毎年、学生・教職員がそれぞれの大学を訪問し交流を深めており、2024年には、南フロリダ大学医療教育シミュレーションセンターとの提携協定に発展しています。今回の協定更新はこのような交流をさらに発展させるために、両大学の強い希望により行われました。

今回の訪問により、岐阜大学と南フロリダ大学の学術交流がさらに深まり、学生や研究者の一層の交流が促進されることを期待されています。



調印式後の記念撮影

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/4/13	岐阜	岐阜大と南フロリダ大 学術交流協定を更新 ～吉田和弘学長～

## 郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催

### 【概要】

5月14日（水）日本語・日本文化教育センターは、「郡上踊り」のワークショップを開催しました。「郡上踊り」は、ユネスコ無形文化遺産であり、国重要無形民俗文化財に指定されている踊りです。当日は、アメリカ、インド、インドネシア、イラン、スペイン、タイ、中国、パキスタン、東ティモール、フランス、ベトナム、マレーシアからの約30人の留学生が参加しました。

ワークショップの始まりに先立ち、美濃市の着付けグループの方々が浴衣の着付けを行い、留学生たちは色とりどりの浴衣を身に着け、写真撮影を楽しみました。ワークショップでは、郡上市から2名の講師を招き、郡上踊りの代表的な2曲「かわさき」と「春駒」を指導していただきました。講師から手の動きや足の動きを丁寧に学び、参加者は真剣に日本の伝統文化を体験しました。ワークショップの最後には郡上市ゆかりの記念品が配られました。留学生からは「最初は難しいと思ったが、踊れるようになって嬉しかった」「もっと郡上踊りを学びたい」という感想が寄せられました。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。



「かわさき」ポーズで集合写真



「かわさき」を習う留学生たち



輪踊りの様子



郡上市ゆかりの記念品と留学生

## カウナス工科大学モニカー・マジアキーン准教授らが 本学を訪問

### 【概要】

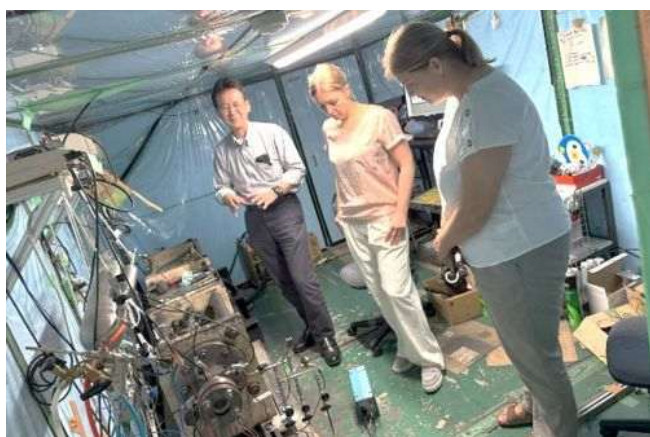
6月9日（月）・10日（火）に「リトアニア・日本ビジネスフォーラム」、「リトアニア・日本科学フォーラム」が東京にて開催され、本イベントに参加していた、カウナス工科大学 モニカー・マジアキーン准教授とリトアニアエネルギー研究所 ラミンター・スクボーシンスキーン研究員が、6月17日（火）に本学を訪問しました。

マジアキーン准教授とスクボーシンスキーン研究員は、リム・リーワ副学長及び工学部の毛利哲也教授から岐阜大学や岐阜県に関する説明を受け、本学の研究内容や岐阜県との連携について理解を深めるとともに、機械工学に関する意見交換を行いました。また、航空宇宙生産技術センターや工学部研究室の見学を行い、岐阜大学の教育・研究活動を体験しました。

本学は、カウナス工科大学と2010年4月に大学間学術交流協定を締結しており、今後もリトアニアとの活発な学生交流及び研究者交流を展開していきます。



記念写真



施設見学の様子



施設見学の様子

## 能楽ワークショップ（日本文化ワークショップ）を開催

### 【概要】

7月9日（水）、日本語・日本文化教育センターは、能楽(能・狂言)ワークショップを開催しました。今回のワークショップには、6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む約50名が参加し、日本の伝統文化を堪能しました。

センターでは、2005年度からプロの能楽師を招いてワークショップを開催していますが、今年は、能の講師として観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生、狂言の講師として、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生と山口耕道先生の計4名をお招きしました。

ワークショップでは、仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史、謡「高砂」の稽古、能と狂言の面（おもて）の違い、能楽の楽器、狂言の「笑い」と「泣き」の表現、狂言「寝音曲(ねおんぎょく)」と能「安達原」の鑑賞、能装束の特徴など、参加者は充実した学びの時間を過ごしました。また、日本語が堪能ではない参加者を念頭に、英語を交えた説明が行われました。

普段なかなか触れることができない本物の「能」「狂言」を体験する貴重な機会となりました。参加者の満足度も高く、アンケート結果は、非常に良好でした。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。



能と狂言の面の違い



能楽で使用する楽器



能装束の着付け



集合写真

## 「日本の魅力を発信！ ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催

### 【概要】

7月14日（月）、グローバル推進機構は、岐阜大学シンポジウム・GU-GLOCALシンポジウム2025「日本の魅力を発信！ストーリーのカ×グローバル視点＝？」を開催し、学内外より300名を超える参加者の来場がありました。

はじめに、映画・ドラマプロデューサーの山田兼司氏が「映画における"世界"とは」をテーマに講演しました。山田氏は、多くの国際的評価を受けた経験から、国境を越えて人の心を動かすストーリー作りには不可欠な"4つの原則"と"7つのエレメント"を軸に、人の心を動かすコンテンツ制作の視点について説明しました。

続いて、脳科学者で作家の茂木 健一郎客員教授、リム リーフ副学長が登壇し、『ストーリーのカ×グローバル視点が生み出すモノとは？』をテーマに、3名の異なる立場からクロストークを行いました。世界を直接目指すのではなく、自分の半径5メートルを深く掘り下げることこそが、結果的にグローバルに通じる普遍的な価値や共感にたどり着く、との考えを共有しました。

参加者からは、「映画の話かと思っていたが、どんな分野にも通じる内容だった」、「自分のストーリーを深めるために、ネガティブな面にも向き合い、"好き"を突き詰めたいと思った」など、前向きな感想が多数寄せられました。

グローバル推進機構では、今後も学生・教職員・地域の皆様に向けた国際的な視点を育む企画を継続して開催してまいります。



会場の様子



山田氏による講演



クロストークの様子

## マレーシア国民大学及びマラヤ大学（マレーシア）、 アンダラス大学（インドネシア）を訪問

### 【概要】

9月8日(月)から15日(月)にかけて、マレーシア国民大学及びマラヤ大学、アンダラス大学を訪問しました。

マレーシア国民大学は、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）連携大学です。今回、新たに学長に着任したSufian Jusoh学長を表敬訪問し、学生間交流・学術連携、JDPの拡大について意見交換を行いました。また、医学部附属病院において、医療現場の視察、医学部学生・医師・スタッフとの交流の可能性について意見交換を行いました。

マラヤ大学においては、今後の両大学間における教育・研究の連携を一層推進するため、協力意向書（Letter of Intent: LoI）の署名式が執り行われました。また、共同研究の推進に向けた協議を行うとともに、学生交流や学術交流の可能性について、Hasniza Binti Zaman Huri副学長（学術・国際担当）らと意見交換を行いました。

さらに、在マレーシア日本国大使館を訪問し、四方敬之特命全権大使はじめ、JDPガイドライン作成に携わり、本学のJDP設置に支援いただいた北岡龍也参事官、岐阜県庁から出向中の安江俊二三等書記官らと、マレーシアにおける大学の展開について懇談しました。

マレーシアに引き続き、インドネシアのアンダラス大学も訪問しました。アンダラス大学は、本学との大学間学術交流協定校の中で最も長い歴史を持っています。同大学において、Efa Yonnedi学長、Syukri Arief副学長らとの懇談を実施し、翌日に行われた創立記念行事にて、吉田学長がこれまでの医学分野における貢献・業績や今後の展望、岐阜大学および東海国立大学機構の特色について、アンダラス大学教職員及び学生に向けた基調講演を行いました。

その後、岐阜大学インドネシア同窓会のメンバー約30名との懇談を実施し、岐阜大学での生活の思い出や今後の交流の可能性について意見交換を行いました。

今回の訪問を通じて、両国との教育・研究連携のさらなる深化が期待されます。



マレーシア国民大学のSufian Jusoh学長と吉田学長



マラヤ大学におけるLoI署名式

～国際化に関連する取組～

マレーシア国民大学及びマラヤ大学（マレーシア）、  
アンダラス大学（インドネシア）を訪問



在マレーシア日本国大使館での集合写真



アンダラス大学創立記念行事にて基調講演を行う吉田学長



アンダラス大学創立記念行事での集合写真

## チェンマイ大学学長らが本学を訪問

### 【概要】

10月9日（木）に、タイのチェンマイ大学よりポングラック・スリバンディトモンコル学長ら6名が本学を訪問しました。

本学とチェンマイ大学との友好関係は、1980年代に本学医学部との交流を契機として始まり、2003年には両大学間で学術交流協定を締結しました。その後も双方の大学への訪問など交流が続いており、今回の訪問では、大学間学術交流協定の更新に関する署名式が執り行われました。

式典では、吉田学長より、両大学の連携強化の機会を得られたことへの感謝が述べられ、今後は医学・工学・農学など幅広い分野で協力を図り、一層の交流を進めていくことが話し合われました。

今回の協定更新により、岐阜大学とチェンマイ大学は学生交流・学術交流をさらに深め、教育・研究交流を推進してまいります。



大学間学術交流協定更新の署名式



集合写真

## 連合農学研究科が 「IC-GU12 Roundtable 2025」等を開催

### 【概要】

連合農学研究科は、11月10日（月）に、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（IC-GU12）による第14回「IC-GU12 Roundtable Meeting 2025」を静岡大学農学部にて開催し、国内外の加盟校教員等31名の出席がありました。「農学分野におけるAI・データサイエンス教育」をテーマに、各大学の事例紹介やAI教育の現状や課題、農学分野での応用、教育ネットワーク構築に関する議論が行われました。

同時に、同会場にて研究ポスター発表「UGSAS-GU Poster Presentation on Agricultural Sciences 2025」も開催し、本研究科の学生44名がポスター発表しました。学生たちは来場者と積極的に意見交換を行い、最新の研究動向を学ぶとともに、自身の研究をさらに発展させるための機会となりました。発表後には投票による選考が行われ、本研究科の5名の学生にBest Presentation Award（最優秀発表賞）が授与されました。

加えて11月11日～13日の間、静岡市内において「VI Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems（第6回アジア収穫後システムの品質管理に関するシンポジウム）」を国際園芸学会、日本園芸学会、静岡大学とともに開催しました。本研究科の学生9名が口頭発表やポスター発表を行いました。本イベントは「Innovative Technology for Sustainable Production and Preservation」をテーマに、収穫後システムにおける品質管理技術や最新の技術紹介、各大学の研究成果等を共有しました。また、生物生産科学専攻2年のNAHAR ASHRAFUNさんが「ISHS Young Minds Award for the Best Oral Presentation」を受賞しました。上記期間中は静岡県内の農業関連施設を訪問する視察ツアーも行われました。



IC-GU12ラウンドテーブルの  
参加者集合写真



IC-GU12ラウンドテーブルの様子



ポスタープレゼンテーション  
参加者の集合写真



ポスタープレゼンテーションの様子



ASQP2025 会場の様子



ASQP2025表彰式の様子

## 南フロリダ大学から保健管理センター長の山本教授へ Global Leadership Awardを授与

### 【概要】

12月12日（現地時間）に実施された南フロリダ大学（USF）の卒業式において、本学保健管理センター長の山本眞由美教授がGlobal Leadership Awardを授与されました。

山本教授は本学医学部を卒業後、USFに博士研究員として留学、また同大の臨床医のためのMBAプログラムも卒業しました。現在も本学の保健管理センターおよび連合創薬医療情報研究科の教授とともに、USFのCollege of Public Healthの客員教授として活躍しています。

本学とUSFは2016年に締結した医学部間の協定から本格的な交流をスタートし、両大学から毎年それぞれ5名の医学部生が臨床および研究研修プログラムに参加しているほか、USF学部生20～40名が毎年岐阜を訪問し、医学部医学科・看護学科の学生と交流する貴重な機会を提供しています。これらの取り組みを基盤として2020年には大学間学術交流協定を締結、2025年4月には学長をはじめとする20名ものUSF役員らが本学を訪問し更新調印式を挙行了しました。

これらの交流発展のほか、山本教授はオンライン共修授業や全学レベルの交換留学協定においても中心的な役割を果たしており、両大学間の学術連携の発展に対する貢献が非常に高く評価され、USFから表彰されることとなりました。

今後、両大学の教育・文化的結びつきが益々強化されることが期待されます。



USFのレア・ロー学長（右）からトロフィーを授与される山本教授（中央）

## マレーシア国民大学の副学長らが本学を訪問

### 【概要】

1月7日、岐阜大学はマレーシア国民大学（UKM）学生センターからNorinsan Kamil Othman副学長をはじめとする6名の訪問団を迎えました。今回の訪問は、2月にUKMで実施予定の職員海外実務研修において、本学職員の受け入れを予定していることを契機としたものです。UKMは、岐阜大学が重点的に取り組んでいるジョイント・ディグリープログラムを設置している、重要な協定校です。

学長表敬訪問では、2025年9月に吉田学長がUKMを訪問し、Sufian Jusoh学長との面談や学生・研究者や教職員の交流拡大について意見交換を行ったことが紹介され、両大学間の更なる協力強化への期待が述べられました。

その後、リム・リーワ 副学長（国際担当）および教育推進・学生支援機構の高橋周平 副機構長から本学の取り組みの紹介がありました。さらに航空宇宙生産技術開発センターを視察し、本学の最先端の研究設備を紹介しました。

学内視察などには、UKMでの職員海外実務研修に参加予定の本学職員や、本学に留学中のUKM学生も同行し、学生交流の拡大や今後の協力、岐阜大学での学生生活などについて活発な意見交換が行われました。

今回の交流を通じて、両大学の学生・教職員間の連携が一層深まり、ジョイント・ディグリープログラムを含む国際交流のさらなる発展が期待されます。



マレーシア国民大学訪問団との記念撮影



記念品を交換する吉田学長と  
Norinsan Kamil Othman副学長（学生担当・同窓会担当）

## インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムへ参加

### 【概要】

3月7日から11日にかけて吉田学長、リム副学長（国際担当）らが、協定大学のインド工科大学グワハティ校（IITG）を訪問しました。3月9日には同校で開催された「グワハティJDPシンポジウム」に吉田和弘学長が登壇し、北東インドを軸とした国際共同教育や産学連携の可能性について幅広い議論を交わしました。

同シンポジウムには日印双方の大学関係者をはじめ、政府関係機関や産業界関係者など約190名が参加し、冒頭では、吉田学長は日印間の学術協働の重要性を述べ、リム副学長は本学の国際展開や、大学間で学位を授与するジョイント・ディグリープログラム、インドとの教育・研究協働の広がりについて紹介しました。

さらに、シンポジウム内で開催された会議において、岐阜大学とIITGを含む北東インドの計22大学による「北東インド・日本大学連携コンソーシアム（NER-Japan international academic and research consortium）」の設立に向けた意向表明書（Letter of Intent : LoI）署名式が行われました。岐阜大学は本コンソーシアムにおいて日本側の調整機関として位置づけられ、IITGと連携しながら北東インドと日本の大学・政府・産業界の連携を推進する役割を担います。

本学はこれまで、日本で唯一、IITGとのジョイント・ディグリープログラムを運営し、北東インドを活動の中心に、教育・研究の分野で先導的な連携を進めてきました。今回のLoI署名は、10年以上続く日印協働をさらに発展させ、大学間交流の枠を超えて、地域開発や産業界との連携へと広がる新たな段階を示すものです。

午後に行われた学術セッション「Health-care for a better tomorrow」では、吉田学長が自身の研究成果を紹介するとともに、本学が取り組む医療・生命科学分野における国際共同研究の展望を講演し、日印双方から高い関心が寄せられました。

同日夜には、アッサム州政府主催のバンケットが開催され、日本学術振興会（JSPS）や科学技術振興機構（JST）、国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、日本企業関係者、本学からは吉田学長、リム副学長、小山グローバル推進機構長が出席しました。会場では、日本企業による北東インド進出や、研究・教育連携、学生交流などについて意見交換が行われ、岐阜大学が日本とインド北東部をつなぐ「ハブ」として果たす役割の重要性が改めて共有されました。

岐阜大学は、今回のシンポジウムおよびLoI署名を新たな起点として、北東インド地域を中心とした日印の学術・研究・産学連携をより強固にし、「地域から世界へ」の理念のもと、今後もより一層国際展開を推進してまいります。



シンポジウム参加者との集合写真

# 社会貢献



- ・「次世代地域リーダー育成プログラム」の学生たちがNEXCO中日本と共同で交通安全キャンペーンを開催
- ・大藪副学長が代表を務める「消費者ネットワーク岐阜」が消費者庁消費者支援功労者表彰「ベスト消費者サポーター章」を受賞
- ・OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～寄附金贈呈式を開催
- ・岐阜県と「若者のライフデザイン及びキャリア形成に係る連携事業に関する覚書」を締結
- ・岐阜県と連携推進会議を開催
- ・岐阜大学が「ぎふSDGs推進ゴールドパートナー」に認定
- ・第16回ぎふCOC+事業推進コンソーシアム運営会議を開催
- ・七宗町と「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結
- ・産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催

## 「次世代地域リーダー育成プログラム」の学生たちが NEXCO中日本と共同で交通安全キャンペーンを開催

### 【概要】

4月12（土）河川環境楽園オアシスパークにて、岐阜大学「次世代地域リーダー育成プログラム」の学生たちが、中日本高速道路株式会社（NEXCO中日本）と共同で、「子どもも大人も楽しめる交通安全キャンペーン」を開催しました。

本イベントは、地域リーダーコースの学生5名が中心となり、「地域と共に発展し、地域に喜んでもらえるNEXCO中日本ならではの課題解決」をテーマに、1年間にわたりNEXCO中日本社員と議論を重ねた成果を形にしたものです。高速道路と地域とのつながり強化、そして地域資源の知名度向上という二つの課題に同時に取り組むべく、ノベルティセット（美濃和紙の紙せっけんと竹カトラリー）の開発と親子向けクイズ企画を考案しました。

当日は166名の親子がクイズに参加。NEXCO中日本のマスコットキャラクター「みちまるくん」との記念撮影、高速道路パトカー・白バイ展示、JAF岐阜支部協力によるシートベルト効果体験コーナーなどもあり、多くの家族連れで賑わいました。

この取り組みを経て、4月25日（金）には学生と担当教員がNEXCO中日本名古屋支社を訪問し、活動成果を発表しました。同社岐阜保全・サービスセンターの中根俊明所長より、学生一人一人に感謝状が贈られ、「今後、地域の課題解決にリーダーシップを発揮してほしい」と激励の言葉をいただきました。

岐阜大学は今後も地域や企業と連携し、次世代の地域リーダー育成と地域課題の解決に向けた取り組みを続けていきます。



親子向けクイズ企画の様子



親子向けクイズ企画の様子



ノベルティセット  
（美濃和紙の紙せっけんと竹カトラリー）



集合写真

## 大藪副学長が代表を務める「消費者ネットワーク岐阜」が 消費者庁消費者支援功労者表彰 「ベスト消費者サポーター章」を受賞

### 【概要】

本学の大藪千穂副学長が2010年の設立当初から代表を務めている、岐阜県の消費者団体「消費者ネットワーク岐阜」が令和7年度消費者支援功労者表彰（消費者庁）における「ベスト消費者サポーター章」を受賞しました。消費者庁では、毎年、消費者利益の擁護及び増進を図るために消費者支援活動に顕著な功績のあった個人又は団体を表彰する制度として、消費者支援功労者表彰を実施しています。

このたびの受賞は、「消費者ネットワーク岐阜」が岐阜県内で展開してきた消費者教育の取組が評価されたものです。本学の学生を含む大学生を中心に、毎回400人以上が参加する講演会を年2回開催するほか、高校生向け動画教材の作成をするなど、若者への啓発活動や高齢者の消費者被害防止に大きく貢献しました。



表彰状を受け取る大藪副学長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/5/22	岐阜	消費者庁の支援功労者表彰 消費者ネット岐阜が受賞 ～「消費者ネットワーク岐阜」代表・大藪千穂副学長～
2025/5/23	中日	学生や高齢者への啓発活動評価 消費者ネットワーク岐阜 にサポーター章 ～「消費者ネットワーク岐阜」代 表・大藪千穂副学長～

## OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～ 寄附金贈呈式を開催

### 【概要】

6月11日（水）にOKB岐阜大学プラザ「OKB SCLAMB」において、大垣共立銀行主催による「OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～」の寄附金贈呈式および岐阜大学起業部との交流会が開催されました。

「OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～」は、大垣共立銀行が引き受けた金額の0.2%相当額を、地域の学校や公的機関、医療機関などへ物品・寄附金として寄贈する私募債です。大垣共立銀行は、昨年8月より、岐阜大学を支援先とする同私募債の募集を開始しており、今回は(株)ファーベスト、羽島顆粒工業(株)、富山工業(株)の3社が私募債を発行しており、2回目となる寄附金の贈呈が行われました。

贈呈式には、(株)大垣共立銀行から、後藤 勝利常務執行役、亀井 篤法人営業部長、牧田 尚紀羽島支店長、私募債を発行した2社の代表者が出席し、本学からは、大藪 千穂副学長、寄附金の支援先となる岐阜大学起業部顧問の上原 雅行教授、起業部の学生が参加しました。式典の冒頭に、大垣共立銀行の後藤常務取締役が、「岐阜大学に創設された起業部は、起業家精神を育成し、地域経済の活性化や新産業の創設を目指し、革新的なアイデアの具現化に取り組んでいるすばらしい活動をされています。大垣共立銀行は「OKB SCLAMB」をオープンノベーションの創出拠点として、今後も地域貢献を続けていきたい」と挨拶され、寄附金目録の贈呈が行われました。その後、発行企業の代表者が、岐阜大学との関わりや事業内容についての紹介がありました。大藪副学長からは、寄附をいただいた大垣共立銀行、岐阜大学を支援先として私募債を発行いただいた3社に対して、「岐阜大学は地域の中核大学として、イノベーション、教育・研究、共創を重要視しており、大学の活動を通して地域へ貢献してまいります。」と謝辞を述べられました。

贈呈式終了後、「OKB SCLAMB」の活動紹介、岐阜大学起業部の活動紹介に加え、起業部の学生によるビジネスアイデア発表および交流会が実施され、ビジネスアイデア発表では、2名の学生が将来性のあるアイデアを披露し、参加者からは賞賛の声が寄せられました。

和やかな雰囲気の中、全員で記念撮影をし閉会となりました。



左から 後藤勝利常務取締役、大藪千穂副学長

～社会貢献に関連する取組～

OKB地域応援私募債（拍手喝債）～地域貢献型～寄附金贈呈式を開催



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/12	中部経済	岐阜大に寄付金 3社の私募債で 大垣共立銀行 ～大 藪千穂副学長～

## 岐阜県と「若者のライフデザイン及びキャリア形成に係る連携事業に関する覚書」を締結

### 【概要】

岐阜大学と岐阜県は、令和7年6月13日（金）に「若者のライフデザイン及びキャリアの形成に係る連携事業に関する覚書」を締結しました。

本覚書は、平成20年3月28日付け「岐阜県と国立大学法人岐阜大学との連携に関する協定書」に基づき、若者のライフデザイン及びキャリアの形成に関する教育の推進に向けて、大学と県が連携して取組みを進める目的で新たに締結したものです。

内容としては、岐阜大学が実施する令和7年度全学共通教育科目「自分らしいキャリア設計Ⅰ」の中で、①プレコンセプションケア②ワーク・ライフ・バランス③家庭経営・家族生活をテーマとした授業を実施し、実証結果を取りまとめるほか、①及び②のテーマについては、ビデオ教材を作成し、この教材を活用した講義を企画・監修します。

覚書締結式では、吉田和弘学長、江崎禎英知事が覚書に署名を行いました。その後、吉田学長から「本学が地域の中核大学として人材を育成する上でキャリア教育を推進することは極めて重要であり、本覚書において岐阜県と連携し、プログラムの開発・試行、ビデオ教材の開発、他大学・地元企業へのプログラムの展開の3点からキャリア教育・ライフデザイン教育を推進し、地域・国際社会で活躍できる人材育成に貢献していきたい」と挨拶がありました。江崎知事からは「人生が100年ある中で何を考えどう生きるかをしっかり考えることが必要となる。本覚書は、若者に価値ある情報を提供する大切な取組となると思う。岐阜大学と覚書を締結し、人や物が集まる岐阜県にする中で岐阜県だけではなく日本中の人、世界中の人がいい人生を送るための場所となるような未来を目指していけるようにしたいと思う」と挨拶がありました。

岐阜大学は、本覚書締結を契機として、若者のライフデザイン及びキャリアの形成に関する教育を推進し、若者のアクティブシティズンシップを育成できるよう邁進していきます。



覚書に署名する吉田学長（左）と江崎知事（右）



記念写真

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/18	岐阜	キャリア教育で覚書 県と岐阜大、映像教材開発へ 吉田和弘学長～

## 岐阜県と連携推進会議を開催

### 【概要】

9月4日（木）本学において、岐阜県と岐阜大学による連携推進会議を開催しました。この会議は平成21年度から行っており、16回目となった今回はフレイル予防、異学年集団による学び合い、岐阜県まるっとキャンパス構想などについて江崎禎英知事と吉田和弘学長が意見交換を行いました。

会議では地域課題の解決に向けた多角的な取り組みや、産学官の連携による健康寿命延伸や教育効果の向上などについて事例が紹介され、県と大学の連携強化に向けた今後の展望について活発な議論が交わされました。

会議後には、学内施設の見学を行い、OKB岐阜大学プラザ、糖鎖生命コア研究所、地域連携スマート金型技術研究センター、航空宇宙生産技術開発センターにおいて、岐阜大学の最新の研究事例を紹介しました。

本学は今後も自治体との連携を強化し、地域への貢献に尽力していきます。



江崎知事



吉田学長



集合写真



施設見学の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/9/5	岐阜	フレイル予防など 県と岐阜大が議論 連携推進会議 ～ 吉田和弘 学長～

## 岐阜大学が「ぎふSDGs推進ゴールドパートナー」に認定

### 【概要】

岐阜大学は、岐阜県が推進する「ぎふSDGs推進パートナー登録制度」において、令和7年度第1回登録にて、最上位区分である「ゴールドパートナー」として認定されました。

「ぎふSDGs推進パートナー登録制度」は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、環境・社会・経済の三側面において重点的かつバランスの取れた取組みを行っている事業者を岐阜県が登録・認定する制度です。ゴールドパートナーは、組織としての管理体制が整備され、SDGsの多岐にわたる分野において高い水準で取り組んでいることが評価された事業者に与えられる称号です。

岐阜大学では、教育・研究・地域貢献活動を通じて、持続可能な社会の実現に向けた取組みを積極的に推進しており、今回の登録はその活動が広く認められたものです。

今後も岐阜大学は、地域社会と連携しながら、SDGsの理念に基づいた教育・研究・社会貢献を展開し、持続可能な未来の創造に貢献してまいります。



ぎふSDGs推進ゴールドパートナー  
登録証書授与式



登録証書

## 第16回ぎふCOC+事業推進コンソーシアム運営会議を開催

### 【概要】

1月22日（木）、岐阜大学は「第16回ぎふCOC+事業推進コンソーシアム運営会議」を開催しました。

「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」とは、岐阜大学が主幹校として取り組む地方創生事業「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」を推進するために設立された組織です。地方創生に向けた取組を実施し、若者の県内就職を促進させ、地域社会の活性化に向けて活動を進めています。本コンソーシアムは、岐阜大学をはじめ、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ、岐阜県市長会、岐阜県町村会、岐阜県インターンシップ推進協議会、岐阜協立大学といった教育・行政・産業機関で構成されています。

当日は各大学の学長、各機関の代表者が出席し、2024年度の取組実績について審議を行いました。

教育プログラムの内容や機関同士の連携が充実していることなどが高く評価された一方で、県内企業のインターンシップや企業展への学生参加が少ないことが課題としてあげられました。また、社会情勢の変化を踏まえ、定量的目標値の設定を検討し評価基準を見直すことが提案されました。

最後に、本事業の継続について協議が行われ、コンソーシアム設置期間を2027年3月31日まで延長することが決定しました。

コンソーシアムでは、今後も協働機関との連携をさらに深め、地域社会の持続的発展に寄与してまいります。



## 七宗町と「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結

### 【概要】

岐阜大学地域連携推進本部と七宗町は、1月23日（金）に、「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結しました。

本覚書は、令和6年8月1日付で締結した「七宗町と国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学との連携に関する協定書」に基づき、高校生に向けた高度な学習機会を休日に提供するものです。これにより、若者の学習意欲向上と地域の未来を担う人材の育成を目指します。

「休日七宗高校」では、本学教員が高校に出向き、高校生に対して専門的な講義を行います。身近な環境で高度な学びを体験できる環境を提供することで、大学の研究知を届けるとともに、将来の地域を担う若者の育成と、夢や希望を導く地域としての七宗町の魅力発信にもつなげます。

締結式では、杉山 誠 地域連携推進本部長、堀部 勝広 町長が覚書に署名しました。堀部町長は、「次代の地域を担う高校生の学びを充実させ、若者の夢を叶える町として魅力向上につなげていきたい。」と挨拶しました。杉山本部長は、「大学の知を、次代の地域を担う若者の育成に役立てたい。」と述べました。

岐阜大学は、本覚書締結を契機に、次代の地域を担う高校生が学びを深め、地域活性化に貢献できる人材として成長する機会を積極的に提供し、地域創生に貢献していきます。



覚書に署名する杉山本部長（左）と堀部町長（右）



記念写真

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2026/1/29	岐阜	高校生に休日特別授業 七宗町と岐阜大が覚書 ～杉山誠 副学長（地域連携推進本部長）～

## 産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催

### 【概要】

1月29日（木）、岐阜大学は、工学部の学生や地域連携推進本部地域協学センター教員らによる「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の成果発表会を開催しました。

本プロジェクトは、岐阜県、産業界、大学、金融機関が連携し、県内企業の高度技術者等の確保・育成及び定着を目指す取り組みです。地域を支える人材の育成に向け、各機関が協力しながら10年にわたり継続してきました。

本プロジェクトの一環として、工学部の学生は授業「機械工学創造演習」において県内企業による講義や実習に参加しました。また、本学が推進する「次世代地域リーダー育成プログラム」の授業科目「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」を受講した学生は、県内企業で活躍する若手社員を取材し、その内容を紹介するレポートを作成しました。このレポートは冊子にまとめられ、発表会参加者へ配布されました。

発表会で、王副学長は「このプロジェクトは10年目の節目を迎えました。実習を通して、学生たちはものづくりの楽しさと難しさを理解するとともに県内企業の技術力の高さを体感できたのではないかと思います。イノベーション創出のための人材育成には、大学の教育だけでなく、産業界をはじめ多くの方々の協力が必要不可欠です。今後とも本学に課題等を投げかけていただき、皆様と連携してこのプロジェクトを盛り上げていきたいと思っています」と述べました。続いて、岐阜県産業人材課土田課長より「地元就職者の育成と定着には、関係者一丸となって取り組むことが必要です。10年続いたこのプロジェクトは非常に意義深く、重要な事業です」とご挨拶いただきました。

その後、地域協学センターの塚本准教授が授業「地域産業と企業戦略入門」における県内企業の取材を通じた学びの成果を報告しました。続いて26の学生グループが企業実習での成果を発表しました。学生からは「岐阜県内の企業活動を深く知る貴重な機会となった」などの感想が寄せられました。

最後に、地域協学センターの益川センター長が「学生たちは、企業の皆さまから指導を受け、各企業の技術の高さを知りました。また逆に、学生が行った提案が企業側にもメリットがあったというのは、とても意義深いことです。岐阜大学では、引き続き、皆様にご指導いただきながら産学金官共創教育を推進していきます」と述べました。

本学は今後も、地域・地元産業界の課題解決に向けて行動できる人材の確保、育成、定着を推進し、地域活性化に貢献していきます。

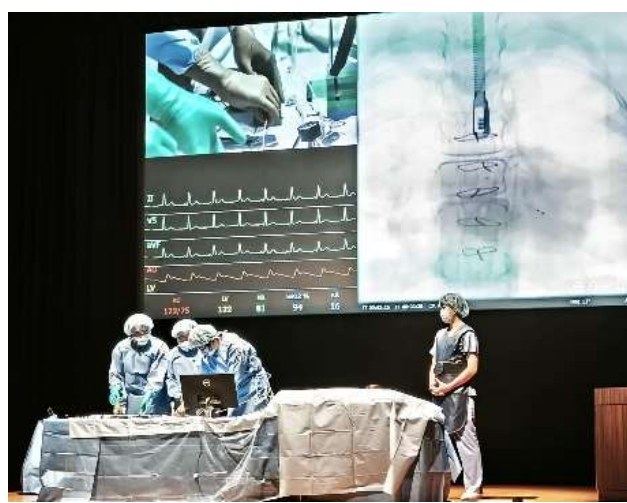


開会挨拶（王副学長）



成果発表（塚本准教授）

# 大学病院



- ・令和7年度看護師特定行為研修開講式を挙
- ・救命救急センターの充実度評価において7年連続「S評価」を取得
- ・ナース・オブ・ザ・イヤー表彰式を挙
- ・「健康ハートの日2025 in GIFU」を開催  
(岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター主催)
- ・新しい働き方の実現へ -国立大学病院初の試み-
- ・令和7年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈
- ・「献血感謝の集い」にて岐阜県知事表彰を受賞
- ・クリスマスイルミネーション点灯式を開催
- ・医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師が外科技術競技大会で世界一
- ・令和7年度病院ボランティア感謝状贈呈式・懇談会・研修会を開催
- ・入院中の子どもたちへ向けて、花火の打ち上げを開催
- ・呼吸器外科 岩田尚 教授が第18回 大上賞を受賞
- ・令和7年度看護師特定行為研修修了式を挙

## 令和7年度看護師特定行為研修開講式を挙行

### 【概要】

4月7日（月）、第6期生 看護師特定行為研修開講式を開催しました。

特定行為とは、医師の判断を待つことなく、特定行為研修を修了した看護師の判断で、医師の手順書により一定の診療補助を実践することです。本院は令和2年4月から、特定行為研修を実施する研修機関に指定されています。

秋山病院長と土井特定行為研修センター長からは祝辞が述べられ、研修生代表は「特定行為研修を通じて高度な知識と技術を習得し、現場のニーズに応えられる人材となるよう自己研鑽に努めます」と抱負を語りました。

本院は今後も、社会に貢献できる自律した看護師を育成することに努めます。



研修生代表挨拶



記念撮影



病院長祝辞



センター長祝辞

## 救命救急センターの充実度評価において 7年連続「S評価」を取得

### 【概要】

先日厚生労働省から公表されました「救命救急センターの充実度評価」において、本院の高度救命救急センターが2018年より7年連続で「S」評価を取得しました。

全国308ヶ所の救命救急センターのうち、S評価を受けたのは102ヶ所、A評価が199ヶ所、B評価が7ヶ所であり、岐阜県下の救命救急センターにおいて「S」評価を取得したのは当院のみとなります。

本院は今後も、岐阜県の救急医療の最後の砦として、地域医療に貢献を続けてまいります。



## ナース・オブ・ザ・イヤー表彰式を挙行

### 【概要】

5月14日（木）、ナース・オブ・ザ・イヤー 表彰式が行われました。

『ナース・オブ・ザ・イヤー』は看護活動の様々な分野において看護師・助産師が、患者さんの看護や業務上の改善等に貢献したことを称えるために毎年行っているものです。

今回は、効果的な感染症予防や、助産師教育体制の整備に取り組んだ6名の看護師・助産師が選ばれました。

表彰式では、秋山病院長から受賞者に表彰状が手渡され、受賞者の活躍が労われました。

今後のさらなる活躍が期待されます。



## 「健康ハートの日2025 in GIFU」を開催 (岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター主催)

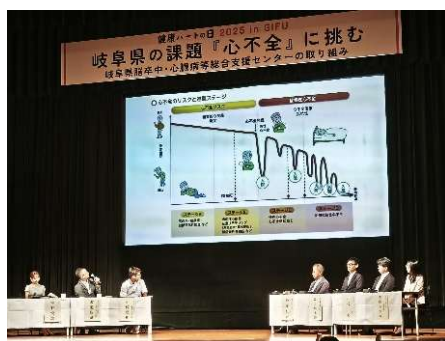
### 【概要】

8月9日（土）、岐阜大学医学部附属病院に新たに開設された岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センターの主催で、「健康ハートの日2025 in GIFU」を岐阜市文化センターにて開催しました。「岐阜県の課題「心不全」に挑む」というテーマで、130名を超える参加者にご来場いただき、今年から実施したキッズイベントには約50名の子供たちが参加しました。

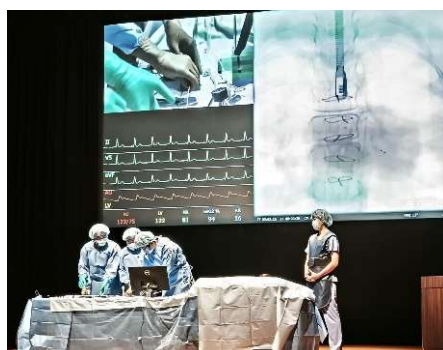
講演会・デモンストレーション・座談会を行ったメイン会場では、患者さんやその家族の姿が多く見られ、「とても勉強になった」「次回は別の疾患や手術などについてさらに知りたい」と興味深く、有意義な時間だったという感想が多く寄せられました。

キッズイベントでは、子供たちがメディカルスタッフと交流し、一緒に参加した家族も興味津々な様子が見られ大変活発なイベントとなりました。検査器具を身に着けデータを確認したり、実際の手術で使われる器具を使ったゲームをスタッフのアドバイスを受けながら挑戦したり、様々な体験に真剣に取り組む子供たちの姿が見られました。

また、イベントには減塩啓発キャラクター「良塩くん」と岐阜県マスコットキャラクター「ミナモ」も訪れ、子供たちと一緒に体験に参加したり、写真撮影を行ったり多くの交流がありました。



会場の様子



デモンストレーション



キッズイベント



良塩（よしお）&ミナモ



体験コーナー

## 新しい働き方の実現へ -国立大学病院初の試み-

### 【概要】

岐阜大学医学部附属病院では、障がいや病気などにより長時間の勤務が難しい方にも、安心して働ける機会を提供することを目的に、「超短時間雇用創出事業」に取り組んでいます。

この取り組みは、東京大学先端科学技術研究センターが提唱する新しい雇用モデルに基づき、週15分からの就労を可能にするものです。働くことを通じて社会とのつながりを感じ、自信や生きがいを育んでいただけるよう、私たちもできることから少しずつ始めています。

当院では、「面会等の受付業務」に超短時間雇用を導入しています。2025年6月から、岐阜市が設置する「岐阜市超短時間ワーク応援センター（受託事業者：社会福祉法人舟伏）」のご協力のもと、登録ワーカー1名を新たにお迎えしました。来院される方々へのご案内などを担当していただいております。病院の一員として丁寧に業務に取り組んでくださっています。

なお、当院は、全国の国立大学病院の中で初めてこの取り組みを実施した医療機関です。国立大学病院として先駆的に新たな雇用の形を導入したことは、医療現場における多様な人材活用の可能性を広げる一歩と考えております。今後も、こうした取り組みが少しずつ広がっていくことを期待しております。

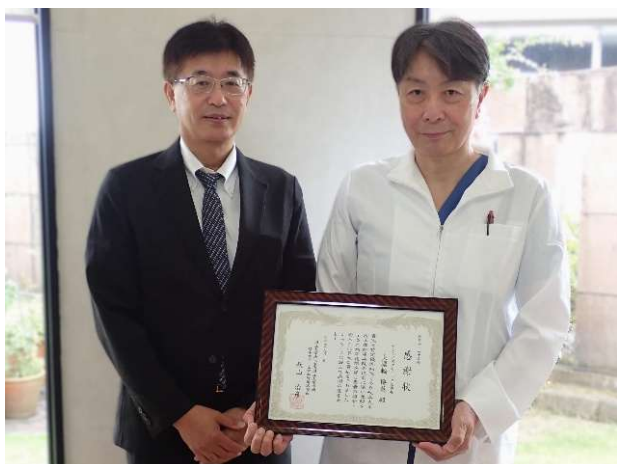
このような取り組みは、岐阜大学が掲げるSDGsの理念——「誰一人取り残さない社会の実現」や「多様性を尊重した人材活用」——にも通じるものです。地域の皆さまとともに、誰もが自分らしく働ける環境づくりを進めてまいります。



## 令和7年度「患者紹介・受入医療機関への感謝状」を贈呈

### 【概要】

岐阜大学病院では例年、前年度の実績より本院に多数の患者を紹介・受け入れていただいた上位30の医療機関へ感謝状を贈呈しています。本年度は過去の訪問実績を参考し下記の医療機関へ病院長が直接訪問し、感謝とさらなる連携のお願いの意を込めて贈呈を行いました。



(右) サンライズクリニック 美濃輪理事長  
(左) 岐阜大学病院 秋山病院長



(左) 戸谷内科 戸谷院長  
(右) 岐阜大学病院 秋山病院長



(右) オリーブ内科・外科クリニック 二宮院長  
(左) 岐阜大学病院 秋山病院長

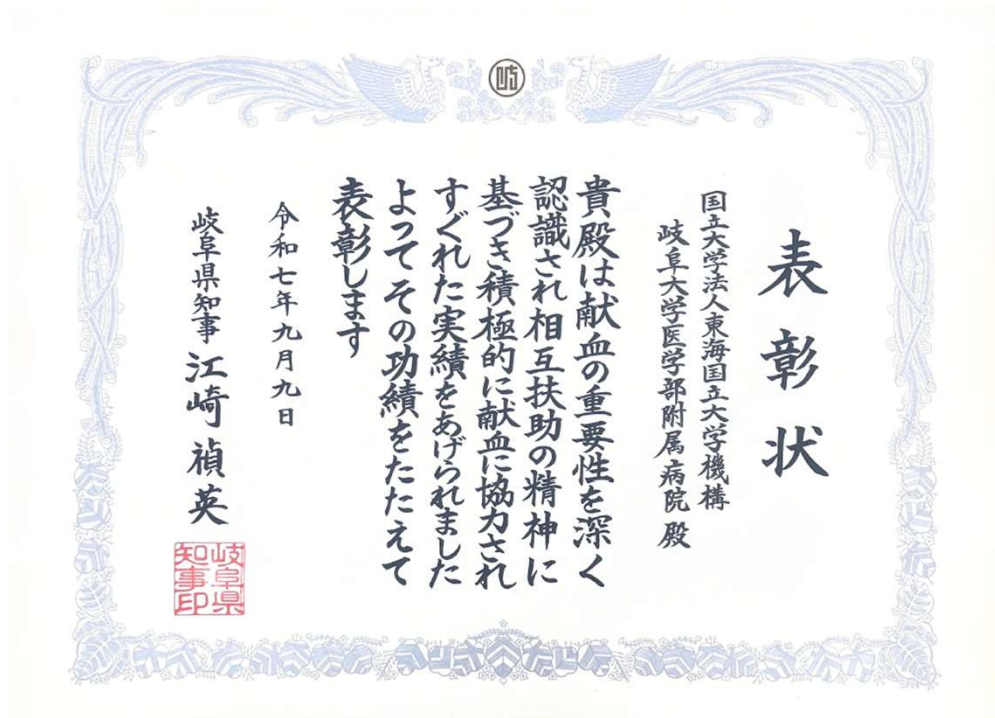
## 「献血感謝の集い」にて岐阜県知事表彰状を受賞

### 【概要】

2025年9月9日（月）、岐阜県庁ミナモホールにて開催された「令和7年度献血感謝の集い」にて、岐阜大学医学部附属病院が岐阜県知事表彰状をいただきました。

この表彰状は、日頃から献血の推進に積極的に協力し、模範となる功績のあった団体又は個人に送られるものです。

当院はこれからも引き続き、献血運動に協力してまいります。



## クリスマスイルミネーション点灯式を開催

### 【概要】

令和7年11月20日（木）、病院1階イベントコーナーにおいて、クリスマスイルミネーションの点灯式を開催しました。

イベントコーナーには高さ3.5メートルの2本のクリスマスツリー、また中庭には可愛いサンタクロースや雪だるまの人形を設置し、それらにイルミネーションを施すことで、訪れる皆さんに楽しんでいただける趣向としています。

点灯式では、病院長の挨拶に続き、さわやかサービス推進室長の音頭により会場に集まったみなさん全員でカウントダウンを行い、イルミネーションが一斉に点灯されました。

続いて岐阜大学医学部室内合奏団によるミニコンサートが開催され、クリスマスにちなんだ曲を演奏。ステージに詰めかけた皆さんは十分に満足された様子でした。

クリスマスイルミネーションは来年1月中旬ごろまでお楽しみいただけますので、ご覧いただければ幸いです。



秋山病院長の挨拶



深尾看護部長による  
点灯カウントダウン



岐阜大学医学部  
室内合奏団の皆さん



サンタクロースとトナカイの姿で  
演奏していただきました



2階のイルミネーションが  
パワーアップしました



中庭もご覧いただけますと  
幸いです

## 医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師が 外科技術競技大会で世界一

### 【概要】

医学部附属病院 消化器外科の畑中勇治 臨床講師が、11月にシンガポールで開催された世界トップレベルの外科医が集う国際大会「MIS Championship 2025」に日本代表チームの一員として出場し、見事世界一の栄冠を獲得しました。この大会は、腹腔鏡手術を中心とした低侵襲外科手技（MIS: Minimally Invasive Surgery）の精度・スピード・安全性を競うもので、世界各国から選抜された外科医が技術を競い合いました。

畑中臨床講師は、2024年12月の第37回日本内視鏡外科学会総会で行われた「日本代表選抜選手権」において日本一に輝いており、その結果、日本代表として国際大会に出場する権利を獲得し「MIS Championship 2025」に出場しました。

今回の優勝は大学の外科教育・研究体制の質の高さを示す重要な実績であり、地域医療から世界水準の医療へとつながる取り組みを強化するものとなります。

### ○畑中臨床講師の受賞コメント

「この度は身に余るご紹介をいただけることとなり大変恐縮でございます。まだ研鑽中の立場ではございますが、幸運も重なり今回の結果をいただくことが出来ました。この結果に慢心せず、引き続き患者様へ良い治療が提供できるよう邁進して参ります。」

### ■ 大会概要

大会名 : MIS Championship 2025

開催期間 : 2025年11月4～8日  
(世界内視鏡外科学会内にて開催)

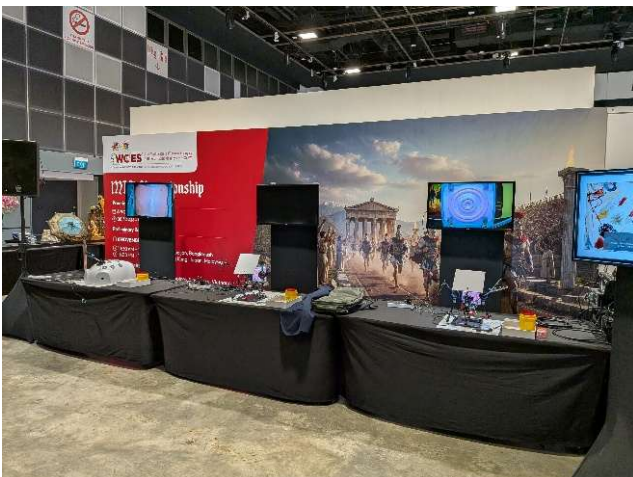
開催地 : シンガポール

競技内容 : 腹腔鏡下縫合・結紮、TAPP法などの  
基本・応用技術を制限時間内で実施し、  
正確性・安全性・スピードを総合評価

参加チーム数 : 世界各国から20チームが参加



表彰式の様子  
(壇上の左から4人目が畑中臨床講師)



## 令和7年度病院ボランティア 感謝状贈呈式・懇談会・研修会を開催

### 【概要】

当院では、毎年ボランティア活動を長時間続け、その功績が顕著であった方へ、病院長より感謝状を贈呈しています。

今年度の感謝状の贈呈者は、高橋しな子さん（4,000時間達成）、三宅利幸さん（200時間達成）、千地陽子さん（200時間達成）の3名でした。

感謝状贈呈式に続いて行われた懇談会では、病院長、副病院長、ボランティア運営に係わるメンバー等が、ボランティア活動される皆さんと一緒にテーブルを囲み、日々の活動等について情報交換を行いました。

午後からの、ボランティア研修会では、サービスマネジメント担当の中口看護師を講師とし、「ボランティア活動における患者対応」について聴講しました。

岐阜大学病院では、幅広い年代のボランティアさんが活躍しており、皆さんやりがいを持って楽しく活動されています。病院ボランティアは、特別な資格を持っていなくても患者さんの役に立ちたいと思っている方ならどなたでも可能です。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



## 入院中の子どもたちへ向けて、花火の打ち上げを開催

### 【概要】

12月12日（金）、岐阜大学医学部附属病院の南東の位置から、入院中の子どもたちへエールの気持ちを込めて花火が打ち上げられました。

花火は病院南東の場所から打ち上がり、入院中の子どもたちは、小児科病棟窓から約10分間の花火を鑑賞しました。

花火が上がると賑やかな歓声があがり、子どもたちは目を輝かせて楽しんでいる様子でした。終了後は、病棟からサイリウムを振って花火師さん達にありがとうを伝えました。

この花火打ち上げは、「小児難病を向き合う子どもとその家族を応援」している団体、エールミールぎふさんの活動によるものです。

クラウドファンディングや募金箱を通じた多くの皆さまからの温かいご支援により、無事、岐阜市内の3病院（当院ほか、岐阜市民病院、岐阜県総合医療センター）の付近で同時に打ち上げとなりました。

この花火が、病気と闘う子どもたちとご家族の明日への力になりますように。引き続き、当院も子どもたちの健やかな未来を応援してまいります。



子どもたちも大盛り上がりでした



終了後に、サイリウムで花火師さん達にありがとうを伝えました

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/12/14	中日	長期入院の子と家族らに花火のプレゼント 病棟の窓越し 上を向いて 岐阜の団体が打ち上げ ～岐阜大学医学附属病院～

## 呼吸器外科 岩田尚 教授が第18回 大上賞を受賞

### 【概要】

呼吸器外科長 岩田尚 教授が、日本内視鏡外科学会の大上賞を受賞しました。岐阜大学からは初の受賞者となります。

大上賞は、内視鏡外科学の発展と普及に著しく貢献した者1名に、年に1度贈られる賞です。国内の内視鏡外科に携わる医師たちにとって最高の榮譽をして評価されています。

### 受賞された岩田先生のコメント

「この度、日本内視鏡外科学会より伝統ある大上賞を拝受し、身に余る光栄に存じます。呼吸器外科領域では9年ぶり2人目となります。関係各位よりご評価頂いたことに深く感謝致しますと共に今後も益々精進して参りたいと存じます。」



## 令和7年度看護師特定行為研修修了式を挙行

### 【概要】

3月2日（月）、看護師特定行為研修修了式を開催しました。

本研修の第6期生として修了した看護師4名に対し、秋山病院長から修了証書が手渡されました。

秋山病院長は「働き方改革もあり、特定看護師には期待すると同時に大きな役割を担ってもらうことになる。一人一人のキャリアアップの第一歩として、研修で得られた技術を、ぜひ看護業務の中で実践してほしい」、土井特定行為研修センター長は「特定看護師の力を借りる機会がこれからも増えていくので、大いに期待している。」と祝辞を述べました。

高度救命救急センターに勤務している研修生代表は「研修で得た知識、技術を用いて、緊急度・重症度を繰り返し評価することや、患者の訴えや身体観察から病態をアセスメントし、迅速な特定行為の実践を行い、重症化の予防に努めます。」と抱負を語りました。

本院は今後も、社会に貢献できる自律した看護師を育成することに努めます。



# 学生活動等



- ・ 岐阜大学の2チームがTongaliビジネスプランコンテスト2025で受賞
- ・ 飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ2025」を開催
- ・ 岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2025」で総合6位を獲得
- ・ 学生チーム「iGEM Gifu」がiGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞
- ・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催
- ・ 岐阜大学医学部のサークル団体が「第77回西日本医科学学生総合体育大会」で総合優勝
- ・ 岐阜大学環境サークル「G-amet」を岐阜市が表彰
- ・ 「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で本学学生が日本MITベンチャーフォーラム賞を受賞
- ・ 社会システム経営学環の学生が企画した新商品「岐阜大仏珈琲」が発売

## 岐阜大学の2チームが Tongaliビジネスプランコンテスト2025で受賞

### 【概要】

6月21日（土）に開催された「Tongaliビジネスプランコンテスト2025 決勝～ファイナル～」(主催：Tongaliプロジェクト)において、岐阜大学から出場した以下の2チームが見事受賞を果たしました。

本コンテストは、全国の大学生・大学院生を対象に、学生発ベンチャーの創出と起業家育成を目的として毎年開催されており、今年も多数の応募の中から選ばれたチームが熱いプレゼンテーションを繰り広げました。

#### チーム外科

代表者：酒井 陽菜（応用生物科学部）

テーマ：「"命を救うための学び"を、命を犠牲にせず実現する  
— 教育現場で創る次世代獣医外科教育モデル」

受賞内容：海外チャレンジ賞、OKB賞

#### GIVELOVE

代表者：北川 愛子（地域科学部）

テーマ：「大学生 × 介護施設の新しい支援のかたち」

受賞内容：右上がり賞、なごのキャンパス賞

両チームの受賞は、岐阜大学における実践的な教育と地域連携の成果を示すものであり、今後のさらなる活躍が期待されます。



チーム外科



GIVELOVE

## 飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！ 「東海クライマックスシリーズ2025」を開催

### 【概要】

岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センターは、9月22日(月)に山県市山県総合体育館において、飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦「東海クライマックスシリーズ2025」を開催しました。

本大会は、岐阜大学 工学部所属の4年生、名古屋大学 工学部所属の3年生を対象とした、飛行ロボット(自律滑空機)を設計・製作する授業より選抜された機体が参加し、今年度は岐阜大学と連携授業を実施している中日本航空専門学校も参加し、どの機体が最も優れた飛行を見せるかを競いました。

これらの様子は東海国立大学機構の松尾清一機構長、吉田和弘岐阜大学学長、本大会顧問森脇久隆氏(前岐阜大学学長)をはじめとする関係者、および一般観覧者111名+近くの幼稚園から90名の年長さんが会場にて観覧されました。

今大会は、岐阜大学2チーム、名古屋大学2チーム、中日本航空専門学校1チームの合計5チーム23名の学生により競技が行われ、各チーム3回のフライトを行った中で発射台(離陸台)からの距離と、中心線からの角度、壁まで到達した場合、到達点の高さを独自の計算式に当てはめて計算し、その総合得点をチーム記録とするルールで行いました。また、昨年度に引き続き業務用送風機にて外乱を発生、今年度も難易度の高い競技となりました。

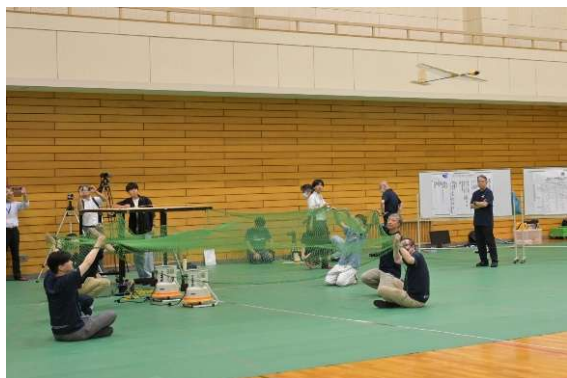
競技会は岐阜大学Bチームが総合得点50.0点で優勝し、57メートルを超える素晴らしい飛行を見せました。また、川崎重工業株式会社の有志チームによるエキシビジョンマッチも行われたほか、各学生チーム機体のデザイン投票を来場者全員にご参加いただき、最も投票の多かった中日本航空専門学校チームがデザイン賞を授与する等、過去最多の観客数もあり、盛り上がりを見せました。

競技後に大反省会として、それぞれの飛行ロボットのフライト動画を見ながら反省点を述べるとともに、他チームからの質問に答えるなど、普段交わることが少ないそれぞれの大学の学生間での交流が生まれ、貴重な体験となりました。

また、千葉大学 名誉教授/福島国際研究教育機構 (F-REI) ロボット分野長/日本ドローンコンソーシアム (JDC) 会長/先端ロボティクス財団理事長/株式会社AutonomyHD代表取締役CEO、野波健蔵先生から、「AIドローンによる新たな空の産業革命」と題して特別講演をいただき、学生にとってはまたとない貴重なお話を伺う機会となりました。

次回以降も盛大なイベントとなるように、これから企画を進めていく予定としています。

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！  
「東海クライマックスシリーズ2025」を開催



競技会の様子（1）



競技会の様子（2）



エキシビジョンを行うFRECKSチーム



特別講演を行う野波健蔵先生



大反省会でフライトの分析を行う学生の様子



集合写真



最優秀賞（岐阜大学Bチーム）



デザイン賞（中日本航空専門学校チーム）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/9/23	読売	飛行ロボ大学生ら熱戦 東海の3校出場 岐阜大チームが優勝 ～航空宇宙生産技術開発センター～
2025/9/24	岐阜	飛行ロボ 誰よりも遠くへ 山県市で学生大会、5チーム競う ～岐阜大学Bチーム 藤原凜太郎さん、水野誠也さん～
2025/9/24	中日	ロボット技術 はばたけ 工夫凝らした機体 飛距離競う 山県で岐大生ら5チーム ～航空宇宙生産技術開発センター～
2025/9/25	朝日	手作り「飛行ロボ」飛距離競う 山県で大会 岐阜大チーム優勝
2025/9/26	毎日	知恵と工夫で飛び上がれ!!飛行ロボ性能競う 岐阜大、名古屋大、中日本航空専門学校 ～岐阜大学Bチーム 藤原凜太郎さん～

## 岐阜大学フォーミュラレーシングチームが 「学生フォーミュラ日本大会2025」で総合6位を獲得

### 【概要】

岐阜大学フォーミュラレーシング（GFR）は、2025年9月にAichi Sky Expoで開催された「学生フォーミュラ日本大会2025」のICV（ガソリンエンジン）クラスにおいて、3年連続の上位入賞となる総合6位のほか、点検項目に対する指摘事項が最も少ないチームに与えられる「ベスト車検賞」、プレゼン・車体重量・製作コストにおいて優秀な成績を収めたチームに与えられる「日本自動車部品工業会長賞」などを獲得し、国内外からエントリーのあった64チームが競う中、GFRは2023年の総合3位、2024年の総合5位に続き、今年も高いレベルで安定したパフォーマンスを発揮しました。

この結果を受けて、11月6日（木）には、吉田学長への入賞報告が行われました。GFRを代表して工学部4年の宮崎 凌太さんは「近年は海外チームの参加も増えており、全体のレベルが上がっている中で好成績を維持できた。来年はもっと上位を目指し、ものづくりという岐阜のブランド向上に貢献したい」と語りました。吉田学長からは「毎年、スポンサー集めから機体製作までの全てを自ら行う学生フォーミュラにおいて好成績が続けられることは、皆さんの将来にとっても非常によい財産になると思います。現状に満足することなく、高いレベルを目指して頑張ってください」とGFRへの期待と激励の言葉が贈られました。



（左から）顧問の菊地 聡 准教授、高木 覚登さん、池上 功晟さん、宮崎さん、吉田学長



GFRのみなさん

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/8	中日	学生フォーミュラ入賞報告 ベスト車検賞も 岐阜大サークルが学長に ～岐阜大学フォーミュラレーシング工学部4年 宮崎凌太さん、3年 池上功晟さん～

## 学生チーム「iGEM Gifu」が iGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞

### 【概要】

10月28日～31日にフランス・パリで開催された、世界最大級の学生主体による合成生物学大会「iGEM 2025 Grand Jamboree」において、50を超える国・地域から約400チームが参加する中で、本学の学生チーム「iGEM Gifu」が長浜バイオ大学と合同で結成したチームの「Japan scinet」が金賞（Gold Medal）を受賞しました。これは「Preser VEG - Preserve Vibrant Edible Goods!!」というタイトルで、食品ロス削減に向けた新たな合成生物学的アプローチを提案したことが評価されたものです。

11月18日にはiGEM Gifuを代表して応用生物科学部4年の牧村美優さんが吉田学長を訪問し、「金賞を目標にこれまでずっとやってきたので、非常に嬉しいです。従来のアプローチを見直して改善に取り組んだことが、金賞という栄えある評価をいただくことに繋がったと思います」と喜びを語りました。

吉田学長は「みなさんが日頃から志を高く持ち、切磋琢磨を怠らなかったことが、新しい発想を生み出すことに繋がったのでしょうか。今後、バイオテクノロジーの分野での活躍を目指すのであれば、この上なくよい経験になると思います」と激励と期待の言葉をかけました。

岐阜大学は、みなさんの挑戦と成長をこれからも応援していきます。



左から、臼井陸太さん、吉田学長、牧村さん、神谷權弥さん、永田大翔さん

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/22	岐阜	合成生物学研究 家庭内の食品ロス削減へ 果物や野菜、鮮度の判定システム考案 岐阜大チーム世界大会「金」～応用生物科学部4年 牧村美優さん～

## 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催

### 【概要】

教育学部附属小中学校の児童生徒を対象に毎年実施している「考えようSDGs！エコ活動啓発川柳・ポスターコンクール」を今年も開催しました。

このコンクールは、十六銀行と締結した「環境保全における連携に関する覚書」に基づき、SDGsについて考え、省エネや環境美化、ごみ減量など、身近な視点からエコ活動を啓発することを目的としています。

ポスター部門は今年で15回目を迎え、昨年新設した川柳部門は今回で2回目の募集となりました。厳正な審査の結果、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、十六フィナンシャルグループ賞を1作品ずつ選出しました。

12月17日（水）、本学で受賞作品の表彰式を開催しました。表彰式では、受賞した児童生徒一人ひとりに吉田学長から表彰状が、十六銀行の國島執行役員から副賞が手渡されました。吉田学長は次のように述べました。「作品の中に込められた皆さんの思いに触れ、環境について改めて考えさせられました。SDGsへの思いをこれで終わらせず、ぜひ行動に移し、将来に活かして大きく成長してください」國島執行役員は、次の言葉を贈られました。「受賞作品はそれぞれの視点でよく考えられており、私たちでは思いつかない表現もありました。SDGsは大きなテーマですが、一人ひとりの意識と行動が地域全体の環境を守ることに繋がります。ぜひ関心を行動に移していきましょう」さらに、西野附属小中学校統括校長は次のようにコメントしました。

「受賞作品から、皆さんが学校だけでなく家庭や日常の中で環境について主体的に学び、考えていることが伝わりました。子どもたちは自分で調べ、考えています。学校の学びに社会の実情を重ね、地域と連携しながら社会参画の意識を育てていきたいと思ひます」

川柳部門で最優秀賞を受賞した3年生の水崎仁琴さんは「魚も人も笑顔になるために、環境を大切にしたいと思ひ、この作品を考えました」と語りました。ポスター部門で最優秀賞を受賞した7年生の高井望乃加さんは「中学校のバレーボール部で『ブロック』という技を練習している。その技を地球の環境問題を食い止めることに重ねて、今起こっている問題を解決したいという思ひで作品を考えました」と話しました。

受賞作品はこれまで本学の図書館に展示され、地域の方も含め多くの方にご覧いただきました。今後は、十六銀行加納支店で2026年1月7日（水）～20日（火）、十六銀行岐南支店で2026年1月21日（水）～2月3日（火）の期間に展示を予定しています。

本活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/12/18	中日	環境保全を啓発 川柳とポスター 岐阜大附属小中生の表彰式

## 岐阜大学医学部のサークル団体が 「第77回西日本医科学生総合体育大会」で総合優勝

### 【概要】

岐阜大学医学部のサークル団体が、鹿児島県で開催された「第77回西日本医科学生総合体育大会」で総合優勝を果たし、2025年10月11日に行われた閉会式において表彰されました。

西日本医科学生総合体育大会は、西日本の医学生を対象に行われる歴史あるスポーツ大会で、夏期競技および冬期のスキー競技を実施しています。第77回大会には44大学が参加し、21種目の競技が行われました。本学からは、陸上部、ソフトテニス部、硬式テニス部、バドミントン部、水泳部、サッカー部、卓球部、剣道部、スキー部などが出場し、各競技において健闘した結果、見事総合優勝を果たしました。

1月20日には、医学部サークルから大会で活躍した学生9名が牛越医学部長に大会の様子について報告を行いました。

陸上競技・100mハードルで1位となった医学部3年の木曾早紀さんは、「昨年度は3位という結果で悔しさが残りましたが、その経験を糧に『今年こそは』という気持ちで日々の練習に真摯に取り組んできました。その成果を発揮し、今年度は念願の1位を獲得することができました。来年度はメンバーを集めてリレー種目にも挑戦し、個人・チームの両面でさらなる成長を目指します」と力強く語りました。

岐阜大学医学部では、学生が課外活動を通して培う挑戦心や協働する力を大切にしています。今後も学生たちのさらなる活躍を期待しています。



## 岐阜大学環境サークル「G-amet」を岐阜市が表彰

### 【概要】

岐阜大学環境サークル「G-amet」が、自然環境保全や環境教育活動に積極的に取り組み、温室効果ガス削減や環境意識活性化に大きく貢献したことが高く評価され、1月14日に岐阜市より表彰されました。

1月29日（木）には、G-ametの学生4名が学長室を訪れ、吉田学長に受賞の報告を行うとともに、日頃の活動内容や今後の抱負について説明しました。また、2月に行われるASCN（アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク）にG-ametとして参加し、日本をはじめ、アジア各国の環境グループとの交流を予定していることも報告しました。

岐阜大学は、学生による環境活動を継続して支援し、環境に配慮したサステイナブルなキャンパスづくりを推進してまいります。



## 「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で 本学学生が日本MITベンチャーフォーラム賞を受賞

### 【概要】

2月24日（火）に開催された「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会（CVG2025）」において、応用生物科学部4年・杉本稜太さん（Umami Japan株式会社 代表取締役）が「日本MITベンチャーフォーラム賞」を受賞しました。

キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）は、1999年に大阪で始まった国内で最も歴史あるベンチャー・スタートアップ系コンテストのひとつで、全国8地域（北海道、東北、東京、中部、大阪、中国、四国、九州）の地域大会を勝ち上がった学生が全国大会に出場します。"学生起業家の登竜門"としても広く知られています。

杉本さんは本学「起業部」在籍中の2023年7月に「Umami Japan株式会社」を設立しました。同社は自社柿農地を保有し、生産から販売までを一貫して行うほか、海外輸出にも積極的に取り組んでいます。岐阜県特産の富有柿「Umami KAKI」は、国内の高級スーパーやオンラインショップで販売されているほか、JAL国際線ファーストクラスで採用されるなど、グローバルな展開も進んでいます。

岐阜大学では、大学発ベンチャー支援やアントレプレナーシップ人材の育成に向けた取り組みを今後も積極的に推進し、活動状況についても情報発信を続けてまいります。



杉本稜太さん（Umami Japan株式会社 代表取締役）



Umami KAKI

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2026/2/25	日刊工業	キャンパスベンチャーグランプリ全国大会 【MIT賞】 Umamiブランドを世界一に！ ～応用生物科学部4年 杉本稜太さん(Umami Japan社長)～

## 社会システム経営学環の学生が企画した新商品 「岐阜大仏珈琲」が発売

### 【概要】

3月27日、OKB岐阜大学プラザにおいて、本学学生が企画した新商品「岐阜大仏珈琲」の発表会を開催しました。本商品は、社会システム経営学環・篠田朝也研究室の学生が中心となり、地域と連携して企画した観光土産で、同日より岐阜市内各所で順次販売が開始されます。

「岐阜大仏珈琲」は、岐阜市の正法寺に安置され、日本三大仏の一つにも数えられる「岐阜大仏」をモチーフにしたドリップバッグコーヒーです。岐阜の重要な文化財の魅力を、より多くの人に知ってもらいたいという学生たちの思いから誕生しました。

本プロジェクトは、岐阜大学の学生に加え、岐阜を代表するイラストレーターの石田意志雄いしお氏、就労継続支援B型事業所「アンドワークス」（運営：ウィンキャリア株式会社）、そして正法寺との協働によって進められました。大学・地域・福祉が連携することで、文化財の魅力発信と障がい者の就労機会創出を同時に目指す、挑戦的な取り組みです。

商品パッケージには、岐阜大仏を親しみやすく表現したイラストが描かれ、味の違いごとに異なるネーミングが付けられています。セットには5種類の珈琲が用意され、それぞれが個性豊かな味わいを楽しめます。さらに、珈琲セットにランダムで同封される「豆知識カード」には、岐阜大仏にまつわる豆知識やエピソードが分かりやすく紹介されており、珈琲を味わいながら、岐阜大仏の歴史や文化的価値に触れることができます。

売り上げの一部は、岐阜大仏の保全活動にも活用される予定で、商品を購入することが地域文化の継承につながる仕組みとなっています。

発表会では、企画に携わった学生たちが、商品開発を通じて得た学びや、地域資源の魅力をどのように伝えるかを考え続けたプロセスについて紹介しました。関係者との繋がりや信頼関係の大切さなど、実践的な学びが詰まったプロジェクトであったことが語られました。



「岐阜大仏珈琲」  
岐阜駅内のTHE GIFTS SHOPや  
岐阜城楽市の起き上がり本舗で販売



「岐阜大仏珈琲」を企画した  
社会システム経営学環学生

# その他



- ・ 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）が吉田学長へカタールでの国際大会結果とスポーツ功労者表彰の受賞を報告
- ・ 創立76周年記念日行事を開催
- ・ サステイナブルキャンパス評価システム(ASCC)において最上位のプラチナ認証を取得
- ・ 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）、本田基偉選手（自然科学技術研究科2年）が、吉田学長へ日本陸上競技選手権大会の結果を報告
- ・ 金沢大学の和田学長による講演会を開催
- ・ 武藤経済産業大臣が本学を表敬訪問
- ・ ウェルネスイベント「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催
- ・ 保健管理センター開設50周年を記念してシンポジウムを開催
- ・ 東京2025世界陸上 走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問
- ・ 第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催
- ・ 「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催
- ・ 第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催
- ・ 大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催
- ・ 医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年記念式典を開催
- ・ iGEM Gifuへの岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・ 吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞
- ・ 文部科学省科学技術・学術政策局参事官が本学を訪問
- ・ 畑中臨床講師への岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・ 文部科学省 高等教育局 国立大学法人支援課長が本学を訪問
- ・ 「岐阜大学経営者の会」新年会を開催
- ・ 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定
- ・ 令和7年度岐阜大学応援奨学生学習成果報告会を開催
- ・ 北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長による講演会を開催

## 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）が吉田学長へ カタールでの国際大会結果とスポーツ功労者表彰の受賞を報告

### 【概要】

6月6日（金）、走高跳びの赤松諒一選手（本学大学院教育学研究科修了、現 SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）と林陵平専任コーチ（本学教育学部保健体育講座 准教授）が、吉田学長を訪問しました。

赤松選手は、5月にカタールで行われた2つの国際大会に参加し、いずれも2位の好成績を収め、世界トップレベルの選手たちと互角に渡り合う活躍を見せました。同大会での2位という成績は歴代の日本人選手で最高順位タイとなる好記録で、赤松選手からは「今年のオリンピックから引き続き、順調に好成績を収められているので、この先に控える大きな大会でも良い成績を収めたい」と吉田学長に報告がありました。

また、今年のオリンピックでの入賞の功績を称え、赤松選手及び林コーチは文部科学大臣より「スポーツ功労者」として表彰されました。選手本人の努力はもちろん、指導者の成果でもあるこの表彰に対して、林コーチは「この表彰は生涯の宝であり、今後も努力を続けるための励みにしたい」と話しました。

吉田学長は、「世界的に著名な選手になっても、いつも岐阜大学のことを考えてくれていて、こうして報告に来てくれることは本当に嬉しい。大学としてもできる限りのサポートはしていきたいので、これからも頑張ってもらいたい」とエールを送りました。

赤松選手と林コーチは、7月に開催される日本陸上競技選手権大会、そして9月に東京で行われる世界陸上競技選手権大会への出場を目指し、さらなる高みへ到達するため日々のトレーニングに励んでいます。本学はこれからも、お二人の世界への挑戦を応援します。

### ○赤松選手大会成績

5月9日

What Gravity Challenge

（ドーハ、カタール）

順位：2位

記録：2m26

5月17日

ダイヤモンドリーグ・ドーハ大会

（カタール）

順位：2位

記録：2m23



左から大数副学長、赤松選手、林コーチ、吉田学長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/5/18	岐阜	赤松2位 走り高跳び 陸上 ダイヤモンドリーグ ～ 医学系研究科研究生 赤松諒一さん～

## 創立76周年記念日行事を開催

### 【概要】

6月4日(水)に本学講堂にて、創立76周年記念日行事を開催しました。式典には、学内外の関係者など約300名が参加しました。

式典は、吹奏楽団の演奏から始まり、名誉教授称号授与、産学連携教授称号授与・産学連携重点研究室認定書授与、職員表彰、学生表彰、学長報告、学部長報告を行いました。

吉田学長による学長報告では、大学が掲げる「ミ・ラ・イ・工」構想の実現や、教育・研究・国際交流・地域貢献活動等の実績を紹介し、特に研究活動においては、法人化以前より本学の特色としていた「生命科学」「ものづくり」「環境・エネルギー」分野が、地域とともに発展し、確実に実を結んでいる様子を紹介しました。さらに、ワンキャンパスに学部や研究センターが集結している強みや、地域創生のハブとして、岐阜県や各自治体との連携にとどまらず、東海環状自動車道岐阜インターチェンジの開通などを通して、岐阜大学を中心に東海ライフサイエンス拠点を形成していく構想なども説明しました。

式典後は、第57回岐阜大学フォーラムを開催しました。フォーラムでは、予防医学の専門家で、全国で初めて「京都大学ヘルシーキャンパス宣言」を実現された、京都大学教授の石見拓氏をお招きし、「大学のウェルネスを考える」というテーマのもと、基調講演を行いました。石見氏は講演を通じて、多様な人々が集まり、大きな複合体を形成しながら知の情報発信の役割を持つ大学は、「ウェルネス」「ウェルビーイング」の創造者であるべきと述べ、さらに、京都大学におけるヘルシーキャンパスの実践や、PHR(Personal Health Record：個人の健康や身体の情報記録したデータ)を活用し、産学官で連携しながら地域の健康づくりをすすめている取り組みを紹介されました。

石見先生の講演に続いて、本学保健管理センターの山本教授、生協学生委員、アメフト部PHANTOMSも登壇し、岐阜大学におけるウェルネス活動を紹介しました。

本記念行事を通じて、岐阜大学のこれまでの歩みを振り返り、未来への新たな一歩を踏み出すことができました。本学は今後も持続可能な社会の実現に向けて邁進してまいります。そして、地域社会と共に発展し続ける地域の中核大学として、学生、教職員、そして地域の皆様とともにさらなる飛躍を目指していきます。



学長報告



産学連携教授称号授与

創立76周年記念日行事を開催



学生表彰



石見教授による講演



岐阜大学におけるウェルネス活動の紹介



ストリートダンス部MECによるパフォーマンス

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/5	中日	創立76周年記念 学生や職員表彰 ～吉田和弘学長～

## サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)において 最上位のプラチナ認証を取得

### 【概要】

岐阜大学は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが評価され、2024年度のサステイナブルキャンパス評価システム（ASSC）において、最上位のプラチナ認証を取得しました。6月21日（土）に立命館大学東京キャンパスで行われた表彰式において、岐阜大学を代表して工学部の櫻田修教授が、サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）の朴恵淑代表理事より認定証を受け取りました。

ASSCはCAS-Net JAPANが、「持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献する大学キャンパス」を促進する取組みの一環として導入した評価・認定制度で、「運営」「教育と研究」「環境」「地域社会」の各部門について分析評価するものです。2014年に本システムが開始されてから、ASSCへの回答提出は延べ118校ありますが、プラチナ認定を受けたのは岐阜大学を含め6大学のみです。

岐阜大学は2018年度にゴールド認証を取得し、2021年度には初のプラチナ認証を取得。そして今回2024年度の認証更新においても引き続きプラチナ認証を取得することができました。

岐阜大学は今後も環境に配慮した活動を推進し、サステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



認定証



左から朴恵淑代表理事、櫻田修教授

## 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）、 本田基偉選手（自然科学技術研究科2年）が、 吉田学長へ日本陸上競技選手権大会の結果を報告

### 【概要】

7月7日（月）、走高跳びの赤松諒一選手（本学大学院教育学研究科修了、現 SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）、本田基偉選手（自然科学技術研究科2年）と林陵平コーチ（本学教育学部保健体育講座 准教授・陸上部顧問・赤松選手の専任コーチ）が、4日に国立競技場（東京）で行われた第109回日本陸上競技選手権大会の結果報告のため、吉田学長を訪問しました。

2m25の記録で2位の好成績を収めた赤松さんは「世界陸上出場への内定（即内定は参加標準記録の2m33をクリア）は持ち越しとなりましたが、まずは良い成績を収められてほっとしています」と笑顔で話しました。

また2m10の記録で14位と健闘した本田さんは「赤松さんというトップレベルの選手が身近にいる環境で、選手としてのコミュニケーションを取りながら、レベルの高い練習を続けてこられたことが日本選手権出場に繋がりました、これからももっと上を目指していきたいです」と語りました。

吉田学長は、「日本選手権という国内トップレベルの大会に国立大学から2人も同時に出場することはまさに大学にとっての誇りです、これからも互いに切磋琢磨し合って頑張ってください」とエールを送りました。

赤松さんは、好成績を維持しており、9月に東京で行われる世界陸上競技選手権大会への出場を視野に入れ、今後も世界の舞台へ向け、林コーチと一緒に挑戦を続けていきます。

本学は、本田さん、赤松さんのように高いレベルの挑戦を続ける方を応援します。



左から林コーチ、大藪副学長、本田選手、赤松選手、吉田学長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/7/5	岐阜	赤松準優勝 男子走り高跳び 日本選手権 左足の調子見て組み立てていた ～赤松諒一（岐阜大学大学院医学系研究科研究生）
2025/7/5	中日	走り高跳び 赤松2位 ～赤松諒一（岐阜大学大学院医学系研究科研究生）～

## 金沢大学の和田学長による講演会を開催

### 【概要】

7月17日（木）、金沢大学の和田隆志 学長を講師としてお迎えし、本学役員、部局長、本学防災担当教員を対象として、「災害対策・大学の対応等」と題した講演会を開催しました。

始めに、岐阜大学の吉田和弘学長から、和田学長の紹介と、講演についての謝辞が述べられました。

講演の冒頭、和田学長から、昨年1月に発生した令和6年能登半島地震により被災された全ての方へお見舞いが述べられ、金沢大学による能登半島地震における復旧対応や中長期の復興への方向性、地域と連携した学びへの対応、地震後すぐに設置した能登里山里海未来創造センターの活動内容などについて実例を交えた紹介がされました。

和田学長の講演内容は岐阜大学にとって非常に意義深いものであり、講演後の質疑応答では、震災への備えや事業継続計画の策定方法など、活発な意見交換が行われました。

被災地域の一日も早い復興を願うと共に、今後の両大学の発展と連携がますます進展していくことを期待します。



講演する和田学長

## 武藤経済産業大臣が本学を表敬訪問

### 【概要】

7月18日、吉田学長は武藤 容治経済産業大臣の表敬訪問を受け、大学の取り組みや将来構想などについて意見交換を行いました。

吉田学長は、武藤大臣を歓迎し、岐阜大学が地域社会との連携を重視し、ものづくりや環境・エネルギー等の分野を中心に産学官連携による研究開発や人材育成に力を入れていること、今後の大学のビジョンとして、グローバルな視点を持った教育・研究の推進や、地域の中核拠点としての役割強化を目指していること等について意見交換を行いました。

今回の表敬訪問は、岐阜大学にとって今後も地域と世界をつなぐ中核拠点として、教育・研究活動を一層推進するための、非常によい機会となりました。



広報誌「岐大のいぶき」を手に記念撮影

## ウェルネスイベント

### 「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催

#### 【概要】

7月16日（水）、岐阜大学保健管理センターは大学生協学生委員会との共催で、ウェルネスイベント「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催しました。

『栄養の力でつながるプロジェクト』とは、一般財団法人日本栄養実践科学戦略機構が企業・団体と連携し、管理栄養士・栄養士と共に、国内外の栄養課題の解決を目指すプロジェクトです。

今回で3年目を迎えた本イベントでは、管理栄養士による栄養講座や保健師・看護師による熱中症予防講座、フードモデルを選んでセンサーに乗せるだけで栄養価計算ができる「食育SATシステム」を用いた食事のバランスチェックなどを行いました。さらに、協賛会社から提供された600個を超えるキウイフルーツと一般財団法人日本栄養実践科学戦略機構が制作・発行した健康啓発資料を無料配布しました。配布物があったという間に無くなるなど、学生に大変好評でした。イベント参加者の中には3年連続の参加者もあり、「ぜひ来年も開催してほしい」との声もありました。

本イベントを通じて、食に関する関心と理解が深まり、毎日の食生活に生かされることを期待します。

保健管理センターと大学生協学生委員会は、大学生協中央店前にウェルネスルームをオープンしています。「皆さんの健康をもっと身近に、もっと気軽に」をコンセプトに、体組成計の測定のほか、健康に関するさまざまな啓発資料を展示しています。岐阜大学の構成員一人ひとりが健康でより良い生活を送れるよう、これからもサポートしていきます。



栄養講座の様子



食育SATシステム体験の様子



無料配布の様子



無料配布の様子

## 保健管理センター開設50周年を記念して シンポジウムを開催

### 【概要】

9月1日（月）、「岐阜大学保健管理センター開設50周年記念 岐阜大学シンポジウム ～大学のウェルネス～」を開催しました。本学講堂への参集が約300名、オンライン参加が約170名と、本学の学生・教職員、OB・OGに加え、全国の大学保健管理関係者など、幅広い関係者の参加がありました。

シンポジウムは、吉田学長の開会挨拶に続いて、全国大学保健管理協会理事で滋賀大学保健管理センター所長の山本祐二教授及び国立大学保健管理施設協議会会長で東京大学保健・健康推進本部副本部長の柳元伸太郎教授より来賓挨拶を、また、全国大学保健管理協会国際連携委員長で立命館大学保健センター所長の中川克教授、応用生物科学部長の西津貴久教授より祝辞を賜りました。また、大学間学術交流協定校である南フロリダ大学からは、国際交流担当のKiki Caruson（キキ・カルソン）副学長のビデオメッセージが紹介されました。

保健管理センター長の山本眞由美教授からの講演は、「保健管理センターの50年とこれから」と題し、50年間の重要な出来事が紹介されました。健康情報のデジタル化と一元化、それによるデータ分析強化と研究の活性化、学内外の連携強化、障害学生支援や感染症対策の終わりなき戦い等です。今後は、データ活用による科学的根拠に基づく健康支援の推進から大学全体のウェルビーイングを目指すという展望が語られました。

特別講演には、学生のウェルネス向上のための先進的な取組をしている米国から、米国大学保健管理協会(ACHA : American College Health Association)のJames Wilkinson（ジェームズ・ウィルキンソン）CEOを講師にお招きしました。「米国の大学におけるウェルビーイングの取組」と題して、ACHAが全米の大学に推進する学生ウェルネスと大学ウェルビーイングの理念や実際について、お話しをいただきました。

講演の後には、本学ストリートダンス部MECのダンスパフォーマンスが披露され、会場はとても盛り上がりました。

最後に、杉山誠副学長の閉会挨拶では、保健管理センターの活動が学生・教職員の健康とウェルビーイング推進の核として今までいかに重要であったかを再確認するとともに、今後は、さらに発展することへの期待が述べられました。



開会挨拶（吉田学長）



来賓挨拶（全国大学保健管理協会・山本理事）

保健管理センター開設50周年を記念してシンポジウムを開催



祝辞  
(南フロリダ大学USF World Kiki Caruson副学長)



講演 (保健管理センター・山本センター長)



特別講演 (ACHA・James Wilkinson CEO)

## 東京2025世界陸上 走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問

### 【概要】

9月24日（水）、東京で開催された「東京2025世界陸上競技選手権大会」にて男子走高跳で、出場した日本人の最高成績となる8位入賞を果たした赤松諒一選手（本学教育学研究科修了、医学系研究科研究生）が、専任コーチの林陵平准教授（教育学部保健体育講座）とともに学長室を訪れ、吉田学長に大会結果の報告を行いました。

赤松選手は「日本開催という特別な舞台で、これまで聞いたことのないような大きな声援をいただけて、本当に嬉しかったです。応援してくださった岐阜大学の皆さん、県内の方々の声援も力になりました。結果には悔しさもありますが、次のステージに向けてさらに努力するための糧にしたいです」と語りました。

林コーチは「今大会でも日本人最高位の成績を収め、ここ数年は、世界トップレベルの大会で戦い続けることが出来ている本物のアスリートだと思います。コーチとして本当にいい選手と巡り会えたことに感謝したい」と振り返りました。

これに対し、吉田学長は「緊張感を楽しみに変えて、すごくリラックスして競技されているように見えました。世界の舞台での入賞という偉業を、あたりまえのように続けていることを大学としても誇りに思います。」と賛辞を送るとともに、赤松選手が本学の名誉を著しく高めた功績を認め、昨年のパリオリンピックでの入賞時に続き「学長特別表彰」を授与しました。

2023年のブダペスト大会から2大会連続の入賞、パリ2024オリンピックも含め3年連続の世界トップレベルの大会での入賞というすばらしい成績にもかかわらず、悔しさを隠さない赤松選手は、この先、もっとすごい成績を見せてくれるのではないかと期待させてくれます。岐阜大学はこれからも世界で戦う赤松選手を応援していきます。

がんばれ！赤松選手！



JAPANのユニフォームを着た赤松選手、林コーチとの記念写真



入賞を祝して懸垂幕を設置

東京2025世界陸上走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/9/15	岐阜	赤松（岐大院出）決勝進出 男子走り幅跳び 3度の試技一発クリア「思い切って攻めるのみ」～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/15	中日	東京世界陸上 史上初 日本人2人決勝へ ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	岐阜	赤松（岐阜市出身）8位 世界陸上連続入賞 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	岐阜	赤松、気迫の跳躍 痛み耐え入賞「記録まだ弱い」走り高跳び8位 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	岐阜	三刀流 飽くなき探求 岐阜の異色ジャンパー 世界連続入賞 医学部研究生でホテルマン ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	中日	赤松8位 瀬古10位、男子走り高跳び ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/18	読売	赤松8位 男子走り高跳び ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/23	岐阜	世界陸上総括 日本勢入賞「11」最多タイ ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	岐阜	世界の激闘 報告「トップと渡り合えた」陸上入賞 赤松選手 岐阜大 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	岐阜	赤松選手 ロスへ意欲 走り高跳び 28年五輪「万全の状態」 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	中日	「けがを治してアジア大会へ」 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	読売	赤松選手「今季一番の跳躍」走り高跳び 世界陸上8位報告 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～

## 第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催

### 【概要】

9月24日（水）に、第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催しました。本コンテストは、学生や教職員が大学での日常生活やキャンパスライフを通じて感じた「岐阜大学の魅力」を学内外に発信することを目的に開催しています。今回は53点の素晴らしい作品が集まりました。審査の結果、6点の作品が優秀作品として表彰されました。

#### ・受賞者リスト

- 最優秀賞：応用生物科学部 山根京子さん
- 優秀賞：応用生物科学部 ニックネーム：カタツムリさん  
グローバル推進機構 松尾憲暁さん
- 佳作：応用生物科学部 秋葉れいさん  
グローバル推進機構 松尾憲暁さん
- 広報担当副学長賞：教育学部 ニックネーム ちいかまさん

（氏名非公開を希望の方はニックネームにて公表）

表彰式では、大藪副学長から「沢山のご応募ありがとうございました。作品は大学広報などで活用していきます。多くの方に、岐阜大学の何気ない日常や四季折々の風景の魅力を感じ取ってほしい」と挨拶があり、表彰者に表彰状と記念品を授与しました。

今回の応募作品は大学広報などで活用予定です。本学は今後も、本取組み等を通じて、学内外に向けて岐阜大学の魅力を発信していきます。



## 「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催

### 【概要】

10月4日（土）、OKB岐阜大学プラザにて「岐阜大学経営者の会」設立総会が開催されました。本会は、岐阜大学で学んだ経営者が世代や業種を越えて交流を深め、相互のネットワークを通じて新たな価値を創出するとともに、母校および地域社会の発展に寄与することを目的に設立されたものです。

当日は、吉田和弘学長をはじめ大学執行部や卒業生、経営者など、計65名が参加し、盛況のうちに発足を迎えました。総会では、吉田学長（本会名誉会長）より「本学出身の経営者は堅実な経営で全国的にも高い評価を受けている、卒業生経営者の皆さまは本学の大切な財産であり、大学との連携を通じて地域に新たな価値を生み出していきたい」との挨拶がありました。続いて、小栗達弘副会長（岐阜造園株式会社 取締役会長）からは、「挑戦と共創で、未来を拓く会」という理念のもと、母校との連携や次世代の育成を通じて地域社会の発展に貢献していく決意が示されました。その後の特別講演では、Umaji Japan株式会社代表取締役で応用生物科学部4年生の杉本稜太さんが「日本の農産物を世界に！」と題して講演を行い、若き経営者の挑戦に大きな共感が寄せられました。

懇親会では、杉山幹夫会長（株式会社岐阜新聞社 最高顧問）が開会の挨拶に立ち、戦後間もない岐阜農林専門学校時代の思い出を交えながら、「岐阜大学が総合大学として発展してきたのは、先人たちの志の賜物であり、今回の『岐阜大学経営者の会』設立は、その精神を今に受け継ぐものである。またこれまで実現できなかった経営者同士のつながりが、ようやく形となった。皆でこの会を盛り立てていこう」と参加者に呼びかけられました。その後、竹中登一氏（アステラス製薬株式会社 元会長）の乾杯により、和やかな雰囲気の中で交流が行われ、世代や業種を超えたつながりが広がりました。

岐阜大学経営者の会は、「挑戦と共創で、未来を拓く会」を理念に掲げ、会員相互の交流を促進し、大学および地域社会と連携した活動を今後も進めてまいります。



集合写真



吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/10/5	岐阜	岐阜大出身 経営者の会 親睦や産学連携へ設立 ～岐阜大学経営者の会～
2025/10/7	日刊工業	岐阜大出身の経営者が交流 新組織発足 産学連携も ～岐阜大学経営者の会～
2025/10/10	中日	岐阜大経営者の会が設立 卒業生連携、人的ネット生かす ～岐阜大学経営者の会～

## 第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催

### 【概要】

2025年11月1日（土）、第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催しました。

本イベントは、岐阜大学に関わるすべてのステークホルダーを対象に、相互の交流と連携を深め、持続可能な関係性の構築および相互支援の促進を目的として実施しており、今年度で3回目の開催となります。当日は、午前には大学全体としてのプログラム、午後には各学部主催による催しが行われました。

午前の部には、本学講堂に208名が来場し、また、YouTubeによる同時配信では100名を超える方々にご視聴いただきました。

はじめに吉田学長から大学の動向について報告があり、続いて、本学の教育研究の発展に寄与した学外者に対して、感謝状の贈呈が行われました。さらに、同窓会連合会会長表彰として、安福やすふく嘉則氏（医学部医学科卒業）、亀井正治氏（農学研究科修了）、赤松諒一氏（教育学研究科修了）の3名が表彰されました。

その後、3氏による特別講演が行われました。安福氏は、「山村の診療所四十年から」-ここに帰る-と題し、洞戸診療所での多岐にわたるエピソードを紹介され、モノやヒトを含むすべての存在には背景があり、多くの関わりの中で一連の流れとして存在しているという視点についても語られました。亀井氏は、「虫を相手の物造り - 昆虫の生理活性物質を用いた駆除剤の開発等 - 」と題し、ご自身の研究内容や開発に携わった製品の紹介に加え、学生への期待、技術者としての心得について言及されました。赤松氏は、「競技力向上のための研究と実践」と題し、現在取り組んでいるトレーニングや研究内容を紹介されるとともに、今後の展望についてもお話しくださいました。参加者は、各分野で活躍中の演者の貴重なご講演に、熱心に耳を傾けていました。

午後の部は、各学部が企画したシンポジウム、公開講座、研究室見学、パネル展示、交流会など、多彩な催しが行われました。合計356名の方にご参加いただき、卒業生、在学生、教職員などが交流を深める貴重な機会となりました。

岐阜大学校友会は、岐阜大学すべてのステークホルダーとの連携強化を目的に、引き続き活動を継続してまいります。

### ・感謝状受賞者

感謝状 : 高橋睦様、森田浩之様

功労賞 : 川島光夫様、武内康雄様

特別功労賞 : 竹中登一様



開会挨拶（吉田学長）



大学の動向報告（吉田学長）

第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催



感謝状贈呈



感謝状（功労賞）贈呈



感謝状（特別功労賞）贈呈



同窓会連合会会長表彰



特別講演（安福嘉則氏）



特別講演（亀井正治氏）

第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催



特別講演（赤松諒一氏）



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/14	岐阜	岐阜大OB医師 地域医療語る ホームカミングデイ ～医学部卒業生 安福嘉則さん～

## 大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催

### 【概要】

11月17日(月)、大学会館食堂において「API DINING」の命名記念式典を開催しました。式典には、アピ株式会社より野々垣代表取締役社長をはじめとする関係者、本学からは吉田学長、王副学長、高橋副学長補佐などが出席し、大学会館食堂「API DINING」の新たなスタートを祝いました。

式典冒頭では、吉田学長よりアピ株式会社からの多大なご支援への感謝と、今後もさまざまな専門分野で同社との連携を強化し、地域とともに成長する大学であり続けたいとの挨拶がありました。続いて、野々垣社長からは、愛称「API DINING」に込められた想いや、食堂をきっかけに会社に親しみをもってほしいこと、岐阜大学とのつながりを大切に、今後も多様な形で貢献したいとのご挨拶をいただきました。その後テープカットが行われ、大学会館食堂「API DINING」は、アピ株式会社との連携を象徴する施設として新たな一歩を踏み出しました。

「API DINING」の愛称は2025年11月1日から2029年10月31日までの4年間使用されます。命名権事業で得られる収益は本学の教育及び研究の発展・向上に役立てていきます。



吉田学長



野々垣代表取締役社長



式典の様子



式典の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/18	岐阜	岐阜大学食堂 アピが命名権
2025/11/23	中日	岐阜大学食堂命名 アピが権利を獲得

## 医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年 記念式典を開催

### 【概要】

本学医学部が創立80年、医学部附属病院が創立150周年を迎えたことを記念し、10月26日（日）に岐阜グランドホテルにて記念式典を開催しました。約160名の関係者が出席し、これまでの歩みを振り返りました。

医学部は1944年に岐阜県立女子医学専門学校として、医学部附属病院は1875年に岐阜県公立病院・附属医学校として開設し、岐阜の地で医学分野の教育研究と地域医療の中核を担ってきました。

式典は、医学部室内合奏団による演奏から始まり、牛越 博昭 医学系研究科長・医学部長、秋山 治彦 医学部附属病院長からの挨拶、吉田 和弘 学長による記念講話、清水 雅仁 医学部附属病院副病院長から医学部80年・附属病院150年の歩みの紹介等がありました。

岐阜大学医学部・医学部附属病院は、今後も更なる発展を目指し、地域とともに歩み続けます。



牛越医学系研究科長・医学部長



秋山病院長



吉田学長による講話



式典の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/10/27	中日	岐阜大医学部80周年 附属病院150周年祝う 岐阜で記念式典
2025/10/27	岐阜	岐阜大医学部、節目祝う 創立80周年、附属病院設立150周年で式典
2025/12/12	中日	岐阜大学医学部創立80周年 岐阜大学医学部附属病院創立150周年 地域とともに、医の未来を築く。
2025/12/28	岐阜	岐阜大学医学部創立80周年 岐阜大学医学部附属病院創立150周年 地域医療の未来を守る ～医学系研究科 研究科長 牛越博昭 教授、第一内科・生体支援センター 生駒良和 助教、地域医療医学センター 仙石由貴 特任助教、医学部4年 夏目侑奈さん、高橋一輝さん、岩田千紗子さん、水谷暉さん、梅田陽七子さん～

## iGEM Gifuへの岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

### 【概要】

12月11日（木）に岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。

この表彰制度は、2023年10月に岐阜大学基金を活用して新設されたもので、教職員および学生等を対象に、国内外で国際的な評価や権威ある賞を受賞し、本学の名誉を著しく高めたと認められる場合に表彰するものです。今回が5件目の贈呈となります。

このたび、本学学生チーム「iGEM Gifu」は、長浜バイオ大学と「Japan Scinet」を結成し、10月28日から31日にフランス・パリで開催された世界最大級の合成生物学大会「iGEM 2025 Grand Jamboree\*」に参加しました。同チームは、野菜や果物の廃棄削減に向けた合成生物学的アプローチをテーマに、鮮度保持・腐敗防止・安全性の可視化を同時に実現する革新的かつ実用性の高いシステムを提案しました。技術面のみならず、社会実装を見据えたHuman Practices活動においても高い評価を得て見事に金賞（Gold Medal）を受賞し、本学の名誉を著しく高めたことから、今回の贈呈となりました。

贈呈式では、学長から「皆さんの活躍は岐阜大学の誇りです。このすばらしい取組を後輩たちにも引き継いでください」との言葉があり、学生からは「今回の取組が今後のiGEMの挑戦に貢献できたら嬉しいです。」とのコメントがありました。

岐阜大学は、「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」への変革を目指し、戦略的な取組を進めてまいります。

\* iGEM 2025 Grand Jamboree :

世界最大級の合成生物学の国際大会で、学生主体の研究プロジェクトを発表している。遺伝子や細胞を「部品」として組み合わせ、新しい機能を持つ生物システムを設計・構築する研究を競う。研究成果だけでなく、倫理的配慮、社会実装、教育活動なども評価対象となっている。



## 吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞

### 【概要】

吉田学長が、第63回日本癌治療学会学術集会において「第31回中山恒明賞」を受賞しました。この賞は日本癌治療学会から、がん治療・診断・予防の分野で顕著な業績を挙げた研究者に贈られる名誉ある賞であり、がん外科領域における最高峰の栄誉の一つです。

今回の受賞理由は、吉田学長による「消化器癌における分子病理学的解析と集学的治療開発に関する研究」で、分子レベルでの病態解明と治療法の革新に大きく貢献したことが高く評価されました。

### ＜学長コメント＞

歴史と伝統ある日本がん治療学会・中山恒明賞を受賞させていただく事ができ、たいへん光栄に存じます。小生これまで、消化器癌の基礎研究・臨床研究・外科治療に携わり、癌細胞のautocrine増殖を証明し、分子標的薬治療・低侵襲治療につながる研究が出来ました。臨床面では、腹腔鏡手術およびロボット手術などの導入・普及に貢献出来ました。胃癌stage IIIでの新たな補助化学療法を開発し(S-1+Docetaxel療法)、胃癌治療のガイドラインを更新する事が出来ました。また、手術不能なstage IV胃癌に対してConversion Surgery の概念を確立するなど癌研究・集学的治療開発に微力ながら貢献することができました。岐阜大学から世界への新たな治療発信が出来たのも、岐阜地域の患者さん、消化器外科・内科の先生方のご支援のおかげです。この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

吉田 和弘



## 文部科学省科学技術・学術政策局参事官が本学を訪問

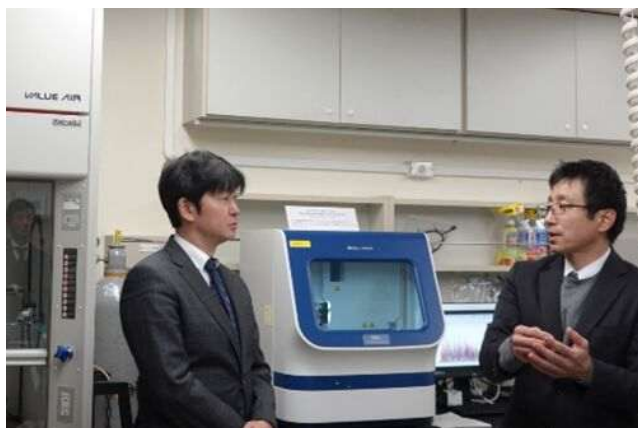
### 【概要】

12月19日、文部科学省科学技術・学術政策局から馬場大輔 参事官（研究環境担当）をはじめとする5名が岐阜大学を訪問しました。

一行は、まずゲノム研究棟と生命科学棟を訪れ、大学内における研究設備・機器の共用化の取り組みを視察しました。

その後、吉田学長、王副学長ら執行部との意見交換会を実施しました。本学からは教育・研究強化に向けた取り組みを紹介し、社会実装大学や地方大学の今後の在り方について議論を交わしました。文部科学省からは先端研究基盤刷新事業についての説明があり、馬場参事官は、研究設備の共用拠点を産学の組織連携で形成することで、新たな協働や成長が期待できると語りました。

岐阜大学は今後も、総合知を活かした研究力の強化を進め、ものづくりを大学改革の推進力として組織整備を図るとともに、ライフサイエンスや環境科学への共創研究の仕組みとノウハウを横展開することを目指します。また、文部科学省などの機関との情報交換の場を引き続き設けてまいります。



ゲノム研究棟視察



生命科学棟視察



意見交換会



意見交換会

## 畑中臨床講師への岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

### 【概要】

1月6日（火）に「岐阜大学基金学長特別表彰」の贈呈式を行いました。この表彰は、国際的に高い評価を受け、権威ある表彰制度等で受賞し、本学の名誉を著しく高めたと認められる学生・教職員に授与するもので、今回で6件目の贈呈となりますが、教職員としては今回が初めての受賞です。

医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師は、2025年11月にシンガポールにおいて世界内視鏡外科学会（WCES2025）の中で開催された、腹腔鏡手術の縫合・結紮技術を競う国際大会「MIS Championship2025」に日本代表として出場し、日本チームの優勝に大きく貢献しました。この大会に先立つ2024年12月に第37回日本内視鏡外科学会内で開催された日本代表選抜選手権でも優勝しており、日本一として日本代表の座を獲得したことと併せて、本学附属病院の高い技術力を示すものとして、岐阜大学の名誉を著しく高めたと認められ、今回の表彰となりました。

贈呈式では、吉田学長が附属病院勤務時に畑中臨床講師の直属の上司であった頃のエピソードなどで話が大きく盛り上がったほか、吉田学長から今後の抱負を尋ねられた畑中臨床講師は「腹腔鏡手術の手技だけでなく、術前等を含めたトータルで"手術の達人"を目指したい。また、研修医等に技術を伝え、外科医の楽しさを知ってもらい、外科医を志す医師を増やしたい。」と語りました。

岐阜大学は、より良い医療を提供するため、今後もさらなる診療の向上に努めてまいります。



表彰の様子



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2026/1/7	岐阜	外科手術国際大会で優勝 岐阜大附属病院 畑中さん表彰～附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～
2026/1/8	朝日	岐阜大・畑中臨床講師 腹腔鏡手術で世界一に 日本代表で大会出場「達人目指す」～附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～
2026/2/13	中日	腹腔鏡手術の腕世界一 岐阜大病院の畑中医師ら 12か国から出場「今後も研さんを」～医学部附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～
2026/2/20	岐阜	腹腔鏡手術、国際大会V 畑中さん（岐阜大病院）「達人」目指す ～医学部附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～

## 文部科学省 高等教育局 国立大学法人支援課長が 本学を訪問

### 【概要】

1月22日（木）、文部科学省 高等教育局より村尾 崇 国立大学法人支援課長らが岐阜大学を訪問しました。

今回の訪問では、本学が誇る最先端研究拠点である糖鎖生命コア研究所および航空宇宙生産技術開発センターを視察しました。視察では名古屋大学との研究連携に関する取り組みなどを紹介しました。

その後、吉田学長、王副学長ら執行部と、法人統合の成果や取り組み、課題について活発な議論が交わされました。

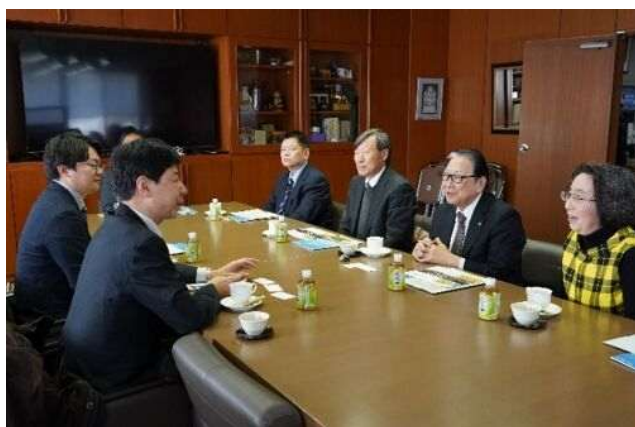
本学では今後も、文部科学省をはじめ関係機関との情報交換の機会を積極的に設け、最先端研究のさらなる推進と地域社会への一層の貢献を目指してまいります。



糖鎖生命コア研究所視察



航空宇宙生産技術開発センター視察



意見交換会

## 「岐阜大学経営者の会」新年会を開催

### 【概要】

1月25日（日）、都ホテル岐阜長良川において「岐阜大学経営者の会」の新年会を開催しました。本新年会は、岐阜大学で学んだ経営者が一堂に会し、世代や業種を越えた交流を深め、今後の連携や共創につなげることを目的として開催したものです。

当日は、会員である経営者の皆様をはじめ、大学関係者など約30名が参加しました。開会にあたり、小栗達弘副会長（株式会社岐阜造園 代表取締役会長）より挨拶があり、続いて佐藤武彦代表幹事（サトウパック株式会社 代表取締役／岐阜県議会議員）の乾杯の発声により、和やかな雰囲気の中で会が始まりました。

会の中では、吉田和弘学長から岐阜大学の近況報告が行われたほか、会員を代表して佐藤武彦氏、浅井彰子氏（言の葉のうつわ 代表）がそれぞれスピーチを行い、本会への期待を語られました。

また、翌1月26日（月）には東京都内でも新年会を開催し、首都圏在住の会員を中心に7名が参加しました。こちらでも活発な意見交換や交流が行われ、有意義な時間となりました。

岐阜大学経営者の会は、今後も会員相互の交流を基盤に、岐阜大学および地域社会と連携した活動を進めてまいります。



小栗副会長による挨拶



集合写真

## 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定

### 【概要】

岐阜大学は、2月6日（金）に開催された「令和7年度ぎふし共育・女性活躍企業認定式」において、岐阜市より「ぎふし共育・女性活躍企業」として認定されました。認定式では柴橋正直岐阜市長より本学男女共同参画室長である大藪副学長へ認定証が授与されました。

本制度は、男性の主体的な育児参画推進に向けて取り組む「共育企業部門」と、女性のさらなる活躍を目指して取り組む「女性活躍企業部門」の2部門で構成されています。本学は両部門において認定を受けており、今回は2回目の更新となります。

2月10日（月）には、大藪副学長が学長室を訪問し認定の報告を行いました。これに対し吉田学長からは、今後の取組に向けた激励の言葉がありました。

岐阜大学では、今後も男女がともに個性と能力を発揮し活躍できる大学づくりを目指してまいります。



ぎふし共育・女性活躍企業認定式  
岐阜市男女共同参画優良事業者表彰式

認定式の様子



学長への報告

## 令和7年度岐阜大学応援奨学生学習成果報告会を開催

### 【概要】

岐阜大学では、昨年の創立60周年を契機として設立した「岐阜大学基金」による事業の一環として、人物および学業成績が優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給することで、その学修を支援し、将来社会に貢献する人材の育成を図ることを目的に、平成22年度より「応援奨学生制度」を実施しています。

令和7年度は、学部・研究科等から計29名の応援奨学生が選出され、2月24日（火）に、これらの奨学生による学習成果報告会を開催しました。

報告会の冒頭では、吉田学長より応援奨学生として選出された学生一人ひとりのこれまでの努力に対して労いの言葉が贈られるとともに、今後さらなる研鑽を積み、社会に貢献する人材として大きく成長することへの期待が述べられました。続いて、大藪副学長からは、岐阜大学基金の設立趣旨やこれまでの寄附者による支援の状況、および基金を活用した事業の概要について説明が行われ、本制度が多くのご支援によって支えられていることが紹介されました。

その後、応援奨学生が順次登壇し、学修・研究活動における成果、今後の抱負、そして奨学金支給に対する感謝の意を、1分間スピーチとして発表しました。いずれの発表からも、学びに向かう真摯な姿勢と将来に対する強い志が感じられ、本学が育成を目指す人材像を体現する内容となりました。

また、益子副学長からは、学生の成長がうかがえる有意義な機会であったとの総括が述べられました。



奨学生を労う吉田学長



スピーチをする教育学部4年坂井さん



集合写真

## 北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長による 講演会を開催

### 【概要】

3月12日に北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長を講師として迎え、部局長や学術研究・産学官連携推進本部所属の特任教員、URA、コーディネーターを対象とした講演会を開催しました。

小泉副学長は、「4 t h Generation University(4GU)から考える大学と社会の新しい関わり方」と題して、大学自身が社会との関係性を主体的に設計し直すための思考の枠組みとして4GUを捉え、新しい形で岐阜大学と社会と関わる方法について講演されました。

その後の質疑応答では、4GUの課題や展望、研究力強化、産学官連携の方向性などについて、率直な意見交換と情報共有が行われ、参加者にとって貴重な機会となりました。



講演会



集合写真

# 東海国立大学機構



- ・ 持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）が発足
- ・ あべ文部科学大臣とジョイント・ディグリープログラムに関する意見交換を行い、伊藤高等教育局長へ要望書を手交
- ・ 東海国立大学機構と富士通、ドラッグ・ロス解消に向け診療データ利活用を加速
- ・ 第4回 東海・信州 国立大学連携プラットフォーム（C<sup>2</sup>-FRONTS）学長懇談会を開催
- ・ 名古屋大学東山キャンパスに「Common Nexus」がオープン！
- ・ 教育グッドプラクティス機構長特別表彰式開催 ～さらなる授業の質向上を目指して～
- ・ 令和6事業年度財務諸表を公表
- ・ 東海国立大学機構 環境報告書2025を公表
- ・ 東海国立大学機構が「第1回サステナビリティレポートアワード奨励賞」を受賞
- ・ 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025を開催
- ・ 第5回 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム（C<sup>2</sup>-FRONTS）懇談会を開催
- ・ 東海国立大学機構 統合報告書2025を発行
- ・ 東海国立大学機構が支援する『東海バイオコミュニティ』が 内閣府「地域バイオコミュニティ」に新規認定

## 持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）が発足

### 【概要】

3月27日、岐阜大学と名古屋大学を運営する東海国立大学機構は、ボーイング ジャパン（株）、三菱重工業（株）、川崎重工業（株）、（株）SUBARUと共同で3月1日に「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）」を設立したことを合同記者会見にて発表しました。このコンソーシアムは、航空機製造業界が直面する共通の課題に対処し、業界全体の持続可能性を向上させることを目的としています。

記者会見では、東海国立大学機構の松尾清一機構長が「労働人口の減少や省エネの課題に対して、大学の最先端技術を活用し、革新的な解決策を見つけ出すことを目指しています」と発言され、岐阜大学の吉田和弘学長は「AIやロボティクス、マルチモーダルAI外観検査システムなどの最先端技術を活用し、航空機製造における効率化と品質向上を実現する大きな一歩となるでしょう」と述べました。また、ボーイング ジャパン（株）のMauricio Benitez BR&T Japan Center Leader、三菱重工業（株）の河野 豊彦 民間機セグメント 技術部長、川崎重工業（株）の田村 純一 生産副本部長、（株）SUBARU航空宇宙カンパニーの鈴木 良成 カンパニーヴァイスプレジデントからもCSAPへの期待を込めた挨拶をいただきました。

航空宇宙生産技術開発センターの酒井 昭仁 センター長からはCSAPの概要説明があり、労働力不足への対応や生産リードタイムの短縮を目指し、AIやロボット技術を活用した研究開発を進めることに重点を置いていること、特に、マルチモーダルAI外観検査システムの研究では、品質要求にどのように違反しているかを、熟練検査員のように判断できるシステムの開発を目指していることなどが説明されました。

このコンソーシアムの設立により、航空機製造業界全体の持続可能性が向上し、日本の航空宇宙産業が国際市場で優位に立つことが期待されています。



関係者による集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/3/28	日本経済	航空機の生産を省力化 研究団体設立 ボーイングなどと 東海国立大学機構 ～航空宇宙生産技術開発センター、吉田和弘学長～
2025/3/28	岐阜	東海国立大学機構、ボーイング、川重など5者 持続可能な航空産業へ協力 組織設立 生産技術の研究開発 ～航空宇宙生産技術開発センター、吉田和弘学長～
2025/3/30	中日	航空機製造産業の課題解決 岐阜大など共同事業体 産学連携 ～航空宇宙生産技術開発センター、吉田和弘学長～

## あべ文部科学大臣とジョイント・ディグリープログラムに関する 意見交換を行い、伊藤高等教育局長へ要望書を手交

### 【概要】

4月25日（金）、東海国立大学機構 松尾清一 機構長、岐阜大学 吉田和弘 学長、名古屋大学 杉山直 総長（オンライン参加）および両大学の関係者が、あべ俊子 文部科学大臣を訪問し、東海国立大学機構を構成する両大学のジョイント・ディグリープログラム（JDP）の実施状況等について意見交換を行いました。

冒頭、松尾機構長から、岐阜大学が会長、名古屋大学が副会長を務める全国大学JDP協議会の取組を紹介し、文部科学省の協力に対して謝辞を述べたあと、吉田学長および杉山総長から、それぞれの大学のJDPの説明を行い、成果や課題、今後の展望について意見交換を行いました。

また、全国大学JDP協議会の会長を務める岐阜大学の小山博之 教授が、松尾機構長とともに「ジョイント・ディグリープログラムの運用に関する要望書」を伊藤学司 高等教育局長に手交しました。小山会長からは、令和4年度に提出した要望書が、令和5年度の大学設置基準の一部改正に繋がったことなどに対して感謝を述べ、今後のJDP発展に向けた新たな要望について意見交換を行いました。

全国大学JDP協議会、東海国立大学機構および両大学は、あべ大臣、伊藤高等教育局長に対して、今後も文部科学省等の協力を得ながらJDPを推進していく方針であることを表明しました。



左から、東海国立大学機構 松尾機構長、あべ文部科学大臣、岐阜大学 吉田学長、全国大学JDP協議会小山会長



伊藤高等教育局長へ要望書を手交する様子



あべ大臣との意見交換の様子

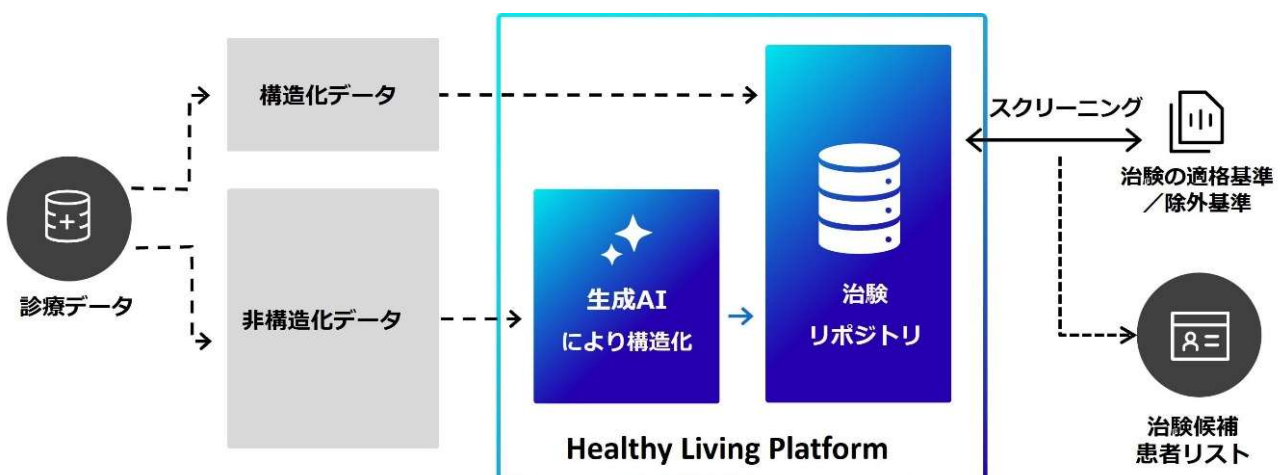
## 東海国立大学機構と富士通、 ドラッグ・ロス解消に向け診療データ利活用を加速

### 【概要】

名古屋大学と岐阜大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構と富士通株式会社は、日本の社会課題であるドラッグ・ロスの解消を目指し、診療データを用いた治験候補患者選定の実証実験を実施し、臨床研究における有用性を確認しました。

本実証実験では、名古屋大学医学部附属病院および岐阜大学医学部附属病院が保有する約1,800名の診療データと、生成AIを活用することで、診療データにおける非構造化データの構造化を約90%の精度で実現しました。そして、構造化したデータをもとに、過去に実施済の3つの治験において治験候補患者のスクリーニングを実施したところ合計42名が抽出され、そのうち実際の適格患者は27名含まれていることを確認しました。診療データには医師による所見の記述など、そのままでは管理や分析に使うことが難しい非構造化データが多く含まれているため、治験候補患者の選定には医師が個々に診療データを確認しなければならず、治験の長期化が課題でした。本実証実験の結果により、治験候補患者の選定にかかる時間を3分の1程度まで削減し、医療従事者の迅速な意思決定を支援するとともに、患者が最適な治験へ参加する機会の向上が期待できます。

今後、両者は本取り組みの対象疾患や実施施設を拡大し精度向上に取り組むとともに、実際の治験での活用を推進していきます。また、本実証実験の結果は、Paradigm Health, Inc.（注5）の世界最先端の治験プラットフォームと連携し、医療機関や製薬企業などと共に治験領域で医療データを活用した新たなエコシステムを構築することでドラッグ・ロス解消に貢献します。



## 第4回 東海・信州 国立大学連携プラットフォーム (C<sup>2</sup>-FRONTS) 学長懇談会を開催

### 【概要】

東海・信州 国立大学連携プラットフォーム (C<sup>2</sup>-FRONTS) の第4回学長懇談会を、6月10日(火)に名古屋市内において開催しました。

これまでオブザーバー参加していた高等専門学校が、今後は参加機関としてC<sup>2</sup>-FRONTSに加わることになり、C<sup>2</sup>-FRONTSの名称を、東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム (Collaboration and Co-creation Framework of National Universities and Colleges in Tokai and Shinshu) に改称することになりました。

当日は各タスクフォースの活動報告、令和7年3月に実施した連携・共創ワークショップの報告、高等専門学校からの報告があり、意見交換を行いました。

一般社団法人中部経済連合会と「半導体産業の振興に向けた共同検討会」を設置することが了承され、今後は、半導体産業の振興に必要な人材育成および確保に向けた産学連携、半導体産業の振興に向けた調査等をテーマとして検討を行うこととなります。



## 名古屋大学東山キャンパスに「Common Nexus」がオープン！

### 【概要】

Common Nexus（コモンネクサス、愛称：ComoNe（コモネ））は、東海国立大学機構が名古屋大学構内に開設する施設です。機構が掲げる理念「Make New Standards for The Public」の具現化を目指し、研究成果や教育資源を公共財として社会に開く新たな共創拠点として構想されました。

岐阜大学・名古屋大学の学生や教職員はもちろん、近隣住民、子ども、研究者、クリエイター、アーティストなど、多様な人々が世代や領域を超えて交わり、発見と出会いが生まれる“探究の場”として2025年7月1日（火）16時、開館しました。みなさま、ぜひお立ち寄りください。



### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/7/1	中日	市民と交流 コモネに来てネ 名大に拠点 ～名古屋大と岐阜大を運営する東海国立大学機構～
2025/7/2	朝日	名大東山キャンパスに交流施設 ～岐阜大学と名大を運営する東海国立大学機構が整備～
2025/7/2	日経	名大敷地に共創拠点 東海国立大学機構 企業・住民と交流
2025/7/2	中日	共創拠点「コモネ」オープン 東海機構 名大に、市民にも開放
2025/7/2	岐阜	岐阜大を運営の東海国立大学機構 知を創造、市民交流拠点 名大に開所、催し計画
2025/7/7	中日	"感情表現クッキー"斬新な案わくわく 名大「コモネ」初の催し 20組発表 ～名大と岐阜大を運営する東海国立大学機構が開設～
2025/7/8	毎日	名大に共創拠点「コモネ」オープン ～名古屋大と岐阜大を運営する東海国立大学機構が整備～

## 教育グッドプラクティス機構長特別表彰式開催 ～さらなる授業の質向上を目指して～

### 【概要】

東海国立大学機構では8月26日、名古屋大学において、第2回教育グッドプラクティス機構長特別表彰式を挙行了しました。本表彰は、両大学の教員の教育に対するモチベーションを高め、授業の質の向上を目指すことを趣旨としています。今回は、他の模範となる特に優れた効果又は成果があったと認められた授業として、岐阜大学より1件、名古屋大学より2件を選考しました。

表彰式には、受賞者である岐阜大学の櫻田 修教授、名古屋大学のウヤヌク ムハメット准教授及び谷村省吾教授に加えて、松尾清一機構長、寺崎一郎教育基盤統括本部長、杉山誠岐阜大学副学長が出席されました。最初に、寺崎本部長より各授業の表彰理由について説明があった後、受賞者に表彰状と副賞が授与されました。その後、松尾機構長より「学生時代に“こんな勉強をした”という思い出は一生残り、人生の糧となる。両大学で素晴らしい成果を共有してさらなる向上につなげてほしい」と謝辞が述べられました。その後、表彰式参加者による懇談及び記念写真の撮影を行いました。

### (受賞者について)

授業：環境マネジメントと環境経営  
担当教員：岐阜大学工学部 櫻田 修 教授

授業：化学基礎Ⅰ  
担当教員：名古屋大学大学院工学研究科  
ウヤヌク ムハメット 准教授

授業：物理学基礎Ⅱ  
担当教員：名古屋大学大学院情報学研究科  
谷村 省吾 教授



(後列) 杉山岐大副学長、松尾機構長、寺崎本部長  
(前列) 櫻田教授、ウヤヌク准教授、谷村教授

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/8/27	中日	岐阜大・桜田教授ら 優れた授業で表彰 東海国立大学機構 ～工学部 桜田修 教授～
2025/9/3	中日	名大・岐大の3授業表彰 ～「環境マネジメントと環境経営」 工学部 桜田修 教授～

## 令和6事業年度財務諸表を公表

### 【概要】

国立大学法人は、国民その他利害関係者に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点から、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、純資産変動計算書、利益の処分（損失の処理）に関する書類、キャッシュ・フロー計算書）の作成及び公表が義務付けられています。

本機構の令和6事業年度財務諸表につきましては、令和7年6月18日開催の役員会及び同月20日開催の経営協議会を経て同月27日開催の運営方針会議にて審議・了承・決定されたもので、令和7年8月29日に文部科学大臣の承認を頂きましたので、ここに公表します。

この財務諸表は、企業会計原則に基づき国立大学法人固有の会計処理を施した『国立大学法人会計基準』等に基づき作成しています。

令和6年度
財務諸表
第21期
自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月 31日
国立大学法人 東海国立大学機構

※ 令和6事業年度財務諸表は下記のURLよりダウンロードできます。  
<https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/syohyo/r6.html>

## 東海国立大学機構 環境報告書2025を公表

### 【概要】

東海国立大学機構環境報告書2025を発行しました。今年度の環境報告書では、東海国立大学機構が掲げる「Make New Standards for The Public」を体現する場としてオープンしたCommon Nexusを紹介する記事を冒頭に据えたほか、両大学のカーボンニュートラルロードマップ、省エネアクト for ゼロカーボンキャンパスの取組の記事など、カーボンニュートラル達成に向けた姿勢やその具体的な取り組み内容、環境に関する研究教育活動を紹介しています。また、多数の学生が編集委員として参加し、研究室を取材しただけでなく、環境に関する社会貢献活動における学生の活動や、学生編集委員による企画など、学生主体による記事も数多く掲載しています。



※ 東海国立大学機構環境報告書2025は下記のURLよりダウンロードできます。  
<https://www.thers.ac.jp/about/publications/environmental/environmental.html>

# 東海国立大学機構が 「第1回サステナビリティレポートアワード奨励賞」を受賞

## 【概要】

11月8日（土）、北海道大学で開催された一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）年次大会2025において、東海国立大学機構が第1回サステナビリティレポートアワード「奨励賞」を受賞しました。

このアワードは、大学や企業が発行する環境報告書やサステナビリティレポートを評価・表彰する制度で、大学生が中心となって審査を行い、次世代の視点を取り入れた新しい取り組みです。環境情報開示の質の向上と、大学・企業・団体によるサステナビリティ活動の社会的発信力強化を目的に、今年新たに創設されました。

今回の受賞は、「東海国立大学機構 環境報告書2025」が岐阜大学と名古屋大学の特色を生かし、機構全体の取組を一体的にまとめた報告書であること、CO<sub>2</sub>排出量などのデータを具体的に開示し、目標未達の要因まで丁寧に説明するなど誠実で透明性の高いこと、また学生の研究インタビュー記事や表紙デザインの公募など、多様な主体を巻き込む工夫にも創意が感じられることが高く評価されました。

東海国立大学機構は、今後も環境活動を積極的に推進し、サステナブルなキャンパスの実現を目指していきます。



表彰式の様子



表彰状

## 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025を開催

### 【概要】

12月5日（金）、糖鎖生命コア研究所及びオンラインのハイブリッド形式にて「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025」を開催しました。今年のテーマは「グローバルサウスにおける大学連携とジョイント・ディグリー ～教育研究の国際化と地方創生～」で、国内外の研究者や学生、産業界・行政・金融関係者など、各方面から多くの参加者が集まりました。

松尾清一 東海国立大学機構長、吉田和弘 岐阜大学長の挨拶に続いては、文部科学省高等教育局の古屋 圭織参事官（国際担当）付専門官 がオンラインにて「留学生 Mobilityの推進及び大学の国際化について」と題した基調講演を行ったほか、筑波大学、山口大学、名古屋大学、岐阜大学のジョイント・ディグリープログラム（JDP）に関わる学生・修了生からのメッセージやパネルディスカッションを実施し、参加者間で実際の交流や学びの成果が共有されました。



松尾機構長による挨拶



吉田学長による挨拶



古屋専門官による基調講演

## 第5回 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム (C<sup>2</sup>-FRONTS) 懇談会を開催

### 【概要】

東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム (C<sup>2</sup>-FRONTS) の第5回懇談会を、1月13日(火)に名古屋市内において開催しました。

当日は3件のタスクフォースの提案があり、静岡大学からは「グリーン循環エコノミー共創研究拠点の形成」、名古屋大学からは「スマート技術を基軸とした東海・信州地域における果樹の温暖化対策に関する研究拠点の形成」、東海国立大学機構からは「ジェンダーダイバーシティの推進」について、それぞれ概要及び取組内容等の説明があり、了承されました。

また、各タスクフォースの活動報告、令和8年3月に開催する連携・共創ワークショップ (TS-UDWS) の報告、高等専門学校からの報告などがあり、意見交換を行いました。



## 東海国立大学機構 統合報告書2025を発行

### 【概要】

名古屋大学と岐阜大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構（以下「東海機構」という。）は、2021年度に初めて統合報告書を発行し、この度、5冊目となる統合報告書2025を発行しました。

本報告書は、東海機構を取り巻く経営上のリスクや機会、グローバル社会や地域社会が直面する社会課題を経営上の重要課題と捉え、その解決に向けた取り組みを経営戦略と体系的に結びつけることにより、東海機構の現在の価値と将来に向けた価値創造をストーリーとして開示するものです。

また、「国立大学法人」の枠を超えて、一般投資家の方とのコミュニケーションを深めるために、「国際統合報告フレームワーク（IIRC）」に準拠して作成しています。

本報告書が、東海機構が目指す価値創造について、あらゆるステークホルダーの皆様にご理解いただくための一助となれば幸いです。

### （主な内容）

- ・東海機構のミッション、ビジョン、バリュー
- ・東海国立大学機構長メッセージ
- ・名古屋大学総長メッセージ
- ・岐阜大学長メッセージ
- ・ハイライト（Central Japan Startup Ecosystem Consortiumのビジョンと戦略）
- ・戦略と課題
- ・価値創造ストーリー（T-PRACTISS、事業戦略、C F Oメッセージ）
- ・価値創造の基盤（ガバナンス、環境関連情報、社会関連情報）
- ・財務データ など



## 東海国立大学機構が支援する『東海バイオコミュニティ』が 内閣府「地域バイオコミュニティ」に新規認定

### 【概要】

国立大学法人東海国立大学機構が研究開発から社会実装まで支援している「東海バイオコミュニティ」は、これまで「育成バイオコミュニティ」として登録されていましたが、内閣府の審査を経て、このたび「地域バイオコミュニティ」として新たに認定されましたので、お知らせします。

内閣府では、「バイオエコノミー戦略」に基づき、バイオエコノミー市場の拡大に向けて国内外から人材・投資を呼び込み、市場に製品・サービスを供給する体制を構築するため、バイオコミュニティの認定を行っています。これまでに、全国に2つのグローバルバイオコミュニティ、6つの地域バイオコミュニティが認定されています。

「東海バイオコミュニティ」は、産学官金のイノベーションによる市場規模の拡大に向けて取り組む多様なステークホルダーが集うコミュニティです。地域バイオコミュニティとして、地域に応じた特色あるバイオ分野の取り組みを展開するもので、愛知県の施設園芸、岐阜県の林業、三重県の養殖業などの農林水産分野と、ものづくりを融合させた技術を中心としてイノベーションエコシステムの構築を図ります。

また、「農林水産業」、「輸送機関連産業」、「グリーンイノベーション」を通じて、今、最も注目されている食料安全保障を社会的側面から支えていきます。「東海バイオコミュニティ」は東海地域の特徴である産業集積地＝ものづくり地域のアセットを強みとし、バイオモノづくりをビジョンに掲げ、バイオエコノミー社会の実現を目指して活動していきます。

